No₁

事務	事業	業コード		08-02-0	2				略プラン				財務	
事務	事業			被保護者	者就 労支援	爰事業		部部 担当	果名 <mark>福</mark> 者名 福	<mark>祉部生活</mark> F原	5福祉課 	課長名		北村 2624
事務事	業	を構成する	る小事		01-0	4-04	被保護者	者就労支				•		
		事業コー												
事務	事美	業の種類	〇 新	規事業	(〇 3年	F度 O	2年度)	〇 建	設事業		〇それ以	外の維	迷続事業
開始。	年度		平成	17 (2005		年度	根拠	生活	保護法				
終期記				無	()		法令等		区非常勤				
実施。	基準	<u> </u>		令基準内			● 区独	自基準	計画	区分		計画	〇非	計画
			分野 政策			建康都市 者や障が		元 1.75	草らせる	が社会の形	么成			
事	業	体系	施策			得者の自		(10.0 0.1	1000) 1 T T <> 1.	<i>71</i> -X			
目的	ነ	に行い、	意欲はa 被保証	あるが、 護者の自	なかなか 立を助長	就業に終っています。	詰びつか≀ とを目的∈	とする。					な支援	を組織的
対象等					年齢層で								,_	· ·- ·
令和3年度より「就労支援専門員(ハローワークOB等)の設置」から就労支援事業業務委託 更なる支援の充実を図る。 [対象者の選定] ・就労意欲があり、かつ支援することにより就労が見込まれる者の選定 [就労支援検討会]・対象者、ケースワーカーとの三者間にて支援方針及び支援内容等を決定 [具体的支援] ・ハローワーク足立、就労支援コーナーあらかわ、JOB町屋等への同行及 各所職業相談部門担当者との連携 ・職業訓練受講及び資格取得等の斡旋並びに指導 ・求人情報提供、面接指導、履歴書・職務経歴書作成指導ほか ・ケースワーカーとの連携(環境整備等)・就労先開拓及び紹介、打診、正 [就労支援結果の確認]・就労状況確認・就労支援継続の要否の検討 平成17年 4月 事業開始(就労支援専門員 1名配置) 平成23年 4月 就労支援専門員を1名増員し2名体制実施											: :定 行及(J.		
経過 必要 物		平成23年 平成25年 平成26年 平成30年 令和 3年 就第	F 4月月月月月月月月月月日 1000日 1	就就生生生※生被 保労労活活活最活保 護支支保保保低福護 者	援援護護護給課者門一一一一一部部のでは、	を1名は1名は1名は1名は1名は1名は1名は1名は1名は1名は1名は1名は1名は1	し2名(い い い い い い い い が は 就 方 設 会 就 が に 表 が 、 で き で き で き で き で き で き き き き き き き き	体口立者立な 援制一給就給数 業実ワ付労付数 務 の	ク常設 」 援 」 援 の 事 第 3 万 円 () () () () () () () () () (令化) 」の法令 定基準見 、 積立率 実施	ー 化) 直し) を一律10		で生活	保護制度
必み」	I		C//C			7/15								
宇松	<u>.</u>	(1直営)			場合 〇			会計年歷				
方法														:社訪問同
		行、山技:	寺抜助	、4/50.5	長状沈雅前	忍及ひ恥	職仮の ノ	/オロー / 	と ツ ノ 	り処カメ	ス技権で∪)要否の検	. 計	
指		事務事業	の成身		指標名	30年度	元年度	指標の推 2年度	3年度 見込み	目標値 (8年度		指標に関	する	説明
	1	就労人員	(人)			24	23	13			60 プロホ	。 ーザル選及 数の試算が		で概ね6割程
標	2	新規支援	人員(ノ	()		20	34	15	60)				こ基づき算出
124	3													
		<u></u> 事務	事業の)分類										
	3			<u>/ガス</u> 4年)				4	分類につ	いての訪	说明・意見	等		
重	(1) 多等 (2) ② (2) ③ (2) ③ (3) 日本 (4) 日本 (4) 日本 (5) 日本 (5) 日本 (6) 日本 (7) 日本 (7) 日本 (8) 日本 (8) 日本 (7) 日本 (7) 日本 (8) 日本 (8) 日本 (9) 日本 (1) 日本 (1) 日本 (1) 日本 (2) 日本 (1) 日本 (1) 日本 (1) 日本 (2) 日本 (1) 日本 (2) 日本 (1) 日本 (1) 日本 (2) 日本 (1) 日本 (2) 日本 (2) 日本 (3) 日本 (2) 日本 (3) 日本 (4) 日本 (4) 日本 (5) 日本 (4) 日本 (6) 日本 (6) 日本 (7) 日本 (7) 日本 (8) 日本 (8) 日本 (8) 日本 (8) 日本 (8) 日本 (8) 日本 (1) 日本 (8) 日本 (1) 日本 (8) 日本 (2) 日本 (8) 日本 (2) 日本 (8) 日本 (4) 日本 (8) 日本 (5) 日本 (8) 日本 (6) 日本 (8) 日本 <			重点的に						就労へのに推進す			こより	被保護者

												(単有	No2 t: 千円)
	_	央算額等の推移		27年月		28年度	29年		30年		元年度	2年度	3年度
予算		(0年本は日21.3.)		5, 98		6, 020		018		771	5, 643	6, 705	17, 524
<u> </u>	阻	(3年度は見込み) 事項名(3年度は見	込み)	5, 97 27年月		6,007 28年度	<u>5,</u> 29年	753 · 使	5, 30年	629	<u>5,633</u> 元年度	6,633 2年度	17, 524 3年度
天 績	就		, <u>,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,</u>		278	323	207	221	00-	210	250	200	200
の													
推移													
	• 3	央算の内訳											
J. JT.	- 17	令和元年度(決算)		令和	D2年度(決算)					F度(予算)	
節		主な事項	金額 (千円)	節		主な事			(千円)	節		な事項	金額(千円)
報酬共済	弗	就労支援専門員報酬 社会保険料	5, 496	報酬 職員手当等		支援専門 壬丑	負報的			報酬	就労支抗 期末手当	爰専門員報西 Ľ	州 2, 786 550
旅費	貝	ハローワーク等同行旅		共済費		<u>ナヨ</u> 保険料				^{映員ナヨ寺} 共済費	社会保险		484
311,50		2 3131311		旅費	_	一ク等同行旅費	、通勤費相		308	旅費	ハローワーク等	字同行旅費、通勤費相	
										委託料	その他の	D委託料	13, 344
												(単位	
		勘定科目	元年度		丰度	差額			E科目		元年度	2年度	差額
		給与関係費	6, 3		7, 038			地方和			0	0	770
行		物件費 維持補修費		5	308		03 行	国庫 3 都支出	支出金 + 全		4, 231 0	5, 001 0	770 0
政	行	扶助費		0	0		0 欧	分担金	<u>□ 亜</u> ∶及び負	担金	0	0	0
コス	政	補助費等		0	0		0 X	使用料	及び手		0	0	0
 		減価償却費	da a	0	0			その仕		1.7.	0	0	770
計		不納欠損・貸倒引当金繰り 賞与・退職給与引当金繰り		0 119	272				7入合言 額(a)-(b		4, 231 ▲ 2, 285	5, 001 1 2, 617	770 ▲ 332
算書		その他行政費用	THE STATE OF THE S	0	0				差額		0	0	0
		行政費用合計(b)	6, 5	516	7, 618	1, 1			額(c)+(d)=(e)	▲ 2, 285	▲ 2, 617	▲ 332
		別費用(g)	1 \	0	0			別収入		(1)	0	0	0
		別収支差額(f)-(g)= 政費用では、給与関		0 の約929	<u>0</u> 6を占				差額(e) 소 회		▲ 2,285 旅费とす		▲ 332
備考		政員用では、相写園 政収入では、国庫負							、 工 的	R、 1寸刀!	がりてい	, J (U···O °	
		→r+ 1- >> - →11 12	1 ± 111 +	12 III I		=# # T. 1	上江口	3 40 3 7	1	- 7 -1- ↓¤	<i>i</i>	12年12年12	8 무 Ს <i>ㄴ</i>
問		新たに、ジョブサポ ワーカーと共に連携					生活四	1躬石	1~※] 9	る文法	東で、別	九分文拨导门	「貝やケー
題点					× 1±10	0							
-													
課題													
	_	一田田の北美佐											
問題.	点 '	・課題の改善策											
		令和2年度に取				和2年度				,		度以降に取り	
	ᆉᆎ	具体的な改善	- 1	<u></u> 4 /= 0		を			J <i>h</i>	<u> </u>		的な改善内容	
		保護者個々の能力評 適宜更新し、情報共				髪状況報∜ 記録及びⅠ						委託により 窮者に対す	
1		構築する。	— • •	し、	支援員	員の動きに	こつい				化してい		
				する	ことた	ができた。							
2													
3													
3													
		/ 			16		_				0	- \	
施状況の実		(実施 <mark>22</mark>	区	未実	施	0	区		不明		0	区)	
状の													
光実													
況 議		和2年 決特 就労	立の件数に	こついて									
へ 会 要質													
要質													
旨別													

事務	事第	美コード		08-02	2-03						ノ 〇 協賃			財務	〇人事
事務	事第	美名		路上生	生活者					者名 得		福祉課	課長名		北村 2624
		を構成する				01-1: 01-1:			<u>舌者対策</u>						
及びう	算	事業コー	ド (3年	F度)		01-1	<u>3-02</u>		舌者自立	又抜争:	未				
		美の種類	-		€ (〇 3年	E度 C	2年度)		建設事業		それ以外		
開始:			平成		(2001	1)		根拠		生活者対策				レス対策
<u>冬期</u>	-			無無		(<u>)</u>		法令等		措置法、生				의 표
実施:			分里	令基準			基準内 建康都市	●区独	日基华	一百世	区分	U	計画	● 非	計画
		評価	<u>力</u> 至 政領						ひして	暮らせる	る社会の形	成.			
手	耒	体系	施領				导者の自								
											して、生活				
目白	ব		きある	「路上	生活者	対策引	事業」の 🤻	利用窓口	となり、	路上生	活者等の早	-期社会 征	复帰に向け	た支	援を行
шн	,	う。													
		芒川区	ThΩ		ル周	ःता ॥	勘生でん	生活する	改 上 汗	· 少 生					
対象		ボバビ	<u>. [7]</u> (7)	坦岭、	公园、	/H] / I	烈寺 (ご	上心りつ	始 上土冶	日守					
等															
								関する相							
						舌者対	策事業」	に基づ	いて設置	された	自立支援セ	ンターの	の利用承認	香承認	
		[自立支				- 時促	謹 (3)	白立支坯	<u>الله (۱۱) ا</u>	械 生 迁	継続支援				
											心が又没 ターを一本	化し、新	新型自立法	接セ	ンター
内容	<u> </u>			再構築			7 171742	•				,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	,		•
	•	[自立支						4		L -L 155 (2	· 		— =n ==		
											E宅は各ブI が行い、特			- z	
											かりし、村		大问处理 9	ତ ୍	
		(0) 11.1	- A A	12 100 BI	,,,,	0,71	E107%	, 0, 2, 3 0.	アトログ山民ログ	2073 07	· E A E /	v 0			
		平成12年	- 7日	路上	生活者	白六寸	5摇宝堂	に伴う者	区位定约	帝結 1		摇虫类	思始		
											路上生活			綱制定	Ξ.
				特別[区長と	都知事	事による	協定の網	結、11月	1 緊急	一時保護事				·
								川寮開設							
<i>ላ</i> ⊽ ነ	п	平成18年 平成20年									-設置完了				
経過	<u> </u>										2 成27年1月	から設置	置二巡目)		
		平成27年	4月	生活	困窮者	自立式	支援法に	基づき事	業実施	(従前に	tホームレ ²	ス対策特)	
									特別措置	置法の1	0年間延長2	夬定			
		令和 2年						閉鎖 開設(令:	£n7Æ1₽	ナ で)					
S, 	l. el	路上生活	者等	の自立	に向け	ナた対	策事業(として実	施する必	要性は	高い。				
必要′	生														
		/ 4 + 24			\	,	± 24 6		관 #L #M 5	_	入三たさ	ᄼᇚᄥ	1 \		
実施	也	(<mark>1直営</mark> 到田丞芸		·⊞ ⊁+ 产) - 22- 1-1-1-			場合 O			会計年度			= =	
方法	Ė	利用承認 ※ 各施									制等の確保 季託	・調整は見	根 兄都かれ	」) 。	
		/N II //	5 DX V7	646			100 197	(月 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 /	五田正 /A	.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	У П				
									指標の推	移					
指		事務事業	の成績	果とす	る指標	[名				3年度	■ 目標値	-	指標に関	する詞	兑明
抇							30年度	元年度	2年度	見込み					
	1	自立者数	(1)				7	10	4			5 D2 年 庄	宝结(6日	1 4 5	1用左)
	\cup	日立白剱	(人)				1	12	4	,	, ,	いれる千度	実績(6月	14 🗆	15代1工/
標	②	自立支援·	センタ	一入所	f者数()	L)	18	9	20	(3 2	0 R3年度	実績(6月	1 4 E	現在)
小示)														
	3														
		事務	事業の)分類						/ *±1-)\~@=\'		to to		
	3	 年度			 年度				3	が親にて	ついての説	明・恵見	,寺		
							路上	生活者を	対象にし	た都区	共同事業で	ごあり、	継続する。		
	ś	継続		4	継続										
	7	PEE 小りじ		7	で 小グじ										
							i								

										(単位	1: 千円)
予算	・決算額等の推移		27年度	Ŧ	28年度	29年)年度	元年度	2年度	3年度
予算			8, 51	4	8, 629	6, 3	354 1	2, 695	6, 904	10, 461	11, 139
決算額	額(3年度は見込み)		4, 59	4	7, 004	5, 2	201 1	0, 867	6, 100	7, 906	11, 139
実	事項名(3年度は見込	み)	27年度	Ŧ	28年度	29年	度 30)年度	元年度	2年度	3年度
	緊急一時保護在籍者数			0	1		0	0	2		2
(n)	自立支援在籍者数			6	6		5	7	6		4
	自立支援住宅在籍者数			1	2		2	1	2		2
	相談延件数			47	48		33	28	11		
	<u> ・決算の内訳</u>			7/	70		00	20	11	7-0]	
」/ 开	<u>・ </u>			全和	112年度((油質)			全和3 4	年度(予算)	
節		金額(千円)	節	111	主な事		金額(千円	節		「皮(すず) Eな事項	金額 (千円)
極瞬	自立支援相談員報酬		報酬	白立	支援相談					_{とな事項} 援相談員報酬	
		393			.又饭怕故 :保険料	貝拟的	404				411
共済											
旅費	緊急一時保護センター同行旅費	50	旅費		保護センター同行旅					ンター同行旅費、通勤費相	
役務:					- 時保護セング					護センター移送費	
負担金補助	_{助等} 自立支援センター分担金	3, 906			支援センタ	一分担金				センター分担会	,
			職員手当等	期末	手当		471	職員手当	等 期末手	当	518
											<u> </u>
	<u> </u>				1 20:-		HI				1:千円)
	勘定科目	元年度		- 度	差額		勘定科		元年度	2年度	差額
	給与関係費	7, 1		4, 038			也方税等		0		0
% =	物件費		8	30		22	国庫支出		0		0
行政	維持補修費		0	C		116/	邻支出金		0		0
政「	行 扶助費		0	C		0 10 2	が担金及び		0		0
コス	政補助費等	3, 5	58	4, 551	9	93 以 (使用料及び	手数料	0		0
\ \	費減価償却費		0	C)	0 / -	その他		0	0	0
計	用不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	C)	0 1		合計(a)	0	0	0
算	賞与・退職給与引当金繰入額	7	13	188	3 🔺 5	25 行政	収支差額(a)	-(b) = (c)	1 1, 400	A 8, 807	2, 593
書	その他行政費用		0	C		0 金扇	业収支差	額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	11, 4	.00	3, 807	7 🔺 2. 5	93 通常	収支差額(c)	+ (d) = (e)	▲ 11, 400	▲ 8,807	2, 593
	特別費用(g)	,	0	Ć			収入(f)		,		0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	(▲ 11 400	▲ 8,807	2, 593
	行政費用では、給与関係		•	· 体の	約97%を						
備考	び交付金(ホームレス自										
問	〇自立支援センター荒川	寮につい	て、プラ	イバ	シー保護	並びに	新型コロ	コナ感染	症予防の額	観点から、各	·部屋を個
題	室にする必要性がある。										
点											
•											
課											
題											
問題	L 点・課題の改善策										
问起								ı			
	令和2年度に取り				和2年度					度以降に取り	
	具体的な改善内	容		5	枚善内容 むんしょう かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かん	および記	平価		具体	的な改善内容	\$
	ネットカフェや簡易宿泊	新等の位	カネッ	トカ・	フェ等への	の特別の	定額給付	金プ	ライバシー	-保護の観点:	から、白
	をいただき、アウトリー				カチラシの					一の個室化	
1	を実施する。	,至以又			ぬりりつい 実施によ					・ の個主に ・ ・ ・ ・ 人厚を含め	
					ことができ		ハマノ中土「小		、鄙及いた討していく		ے ک درات
			1 - 6	., 0	//	_ ,_ 。		17.	H10 C0. (. 0	
2											
3											
施状況の実	(実施 22	区	未実	施	0	区	不	明	0	区)	
紫区											
没の											
『二実											
況議											
べ 会											
一 五											
要問											
世狀											
	ļ										

		"		大口、不及及り入市	• u =	<i>9</i> 3 <u>1</u> C <i>9</i> 3 1C	. 07 07 11/1	1111	10 100 100 100 1	
		=	変古类の	七田しまで比博々			指標の推	移		+15.4至.1~18日. 1 ~7.5兴.00
拊	Í	→	・伤争未の	成果とする指標名	30年度	元年度	2年度	3年度 見込み	目標値 (8年度)	指標に関する説明
		① 被	按保護世帯	(世帯)	5313	5205	5108	5210		毎年10月末時点
桐	馬	② 被	按保護人員	(人)	6370	6182	6002	6122		毎年10月末時点
		3 2	8口払件数	(件)	781	408	116	100		毎年10月末時点
			事務事業	美の分類			,	しおにつ	いての芸皿	· 辛日生
		3年	度	4年度			7	が親にづ	いての説明	I・息兄寺
		継	続	継続	生活仍	呆護法に	基づく経	費であり	り、継続する	る 。

													(単		千円)
予算	決算額等の)推移		27年		28年度	2	9年度	304	丰度	5	元年度	<u>\</u> 2年度		- 1.1./ 3年度
予算		11L 12		4, 301, 0		290, 671		39, 299					4, 066, 238		55, 227
	<u>領</u> (3年度は	見込み)		4, 288, 2		250, 167			7 3, 950				3, 606, 743		55, 227
実		(3年度は見込	<i>A</i>)	27年		28年度		9年度		丰度		元年度	2年度		3年度
績	基準生活延		,• , ,		384	70, 155		69, 98		9, 392		66, 436			66, 500
の	基準生活費										3 I		3, 412, 808		
推	を 年工石員 その他生活			190.		188, 498		79, 93		2, 491		200, 581	212, 246		200, 000
移	ての他工冶	具		190,	324	100, 430	'	13, 30	192	2, 491	- 4	200, 301	212, 240	-	200, 000
	は年の中国													_	
7 昇	決算の内部	<u>て</u> 年度(決算)		<u> </u>	△ ∓	口2年度	() 九 色	生 り		1		△チ⊓ウク	 拝度(予算	١	
節		<u>+及(灰昇)</u> な事項	金額 (千円)	節	<u> </u>	uz + 及 主な事			金額(千円)	節			<u>+ 反(ア昇</u> - な事項		金額(千円)
	世 基準生活				甘淮	<u>エゆず</u> 生活費等					弗	基準生活		_	3, 655, 227
1人的]	具 空午工力	貝可	3, 720, 010	汉则其	至华	工心貝司	F		4, 000, 230	1人的 3	艮	空 华工/	白貝守		0, 000, 227
	+														
														<u>_</u>	
				<u> </u>	+			-+			\dashv			\dashv	
													/ 出	一	千円)
	甘九二	 E科目	元年度	F 2	 年度	差額		Ħ	助定科目	1	=	元年度	(<u>早</u> 2年度		差額
	給与関係		69, 6	_	<u>年及</u> 72, 115		139		可定件日 方税等	1)	<u>10年度</u> 0	2年及	_	在 假 0
	物件費	具	09, 0	0	0		0		^{刀倪寺} 軍支出金	_	2 (•	2, 728, 791		148 004
行	初件資 維持補修	弗		0	0		01		_{里又四回} 支出金	<u>.</u>	۷, (44, 201	48, 670		4, 469
政		貝	3, 728, 8	•	•				文田玉 B金及び負	白山石		44, 201	48, 670		4, 409
⊐	行 扶助費 政 補助費等		3, 728, 8	0	00, 743 0				型金及び			0	0		0
ス										于釵科			·		12 206
-	ト 貫 減価負却貨 0 0 0 での他 140,920 計 不納欠損・貸倒引当金繰入額 47,341 55,851 8,510 行政収入合計(a) 3,062,816														
計															
算		給与引当金繰入額	10, 8	335	1, 123						_	793, 852		_	45, 885
書	その他行		2 050 0	0 2 7	0				文差額			702.050	000 707		4F 00F
	行政費用					▲ 110,				(d) = (e)	_	793, 852	▲ 839, 737		45, 885
	特別費用(g)		19, 0			▲ 11, 7				\ . (b.\		010,000	A 047 00F	-	04 170
		類 (f) – (g) = (h)											▲ 847, 065		34, 176
加用		約96%を生活											요소드 #Fulm 3 :	ωн	=01+
考		ついても、被f 保護弁償金の2					貝担	旦金か	滅とな	つしい	' ත	。そのれ	凹行蚁拟人	ハ	いし、
		<u> </u>					ıl v 7	い減力	とたつ	t- 世	た	中小二	上 任 任 灌	由語	仕数が
問		とが予想され												十二月	IT 致力,
趄		者や精神疾患												が増	thn I. て
点	いる。			• ФП•	7 - H //H	100)(/-	J 54 31	Спп	H J I C / [, , ,	C C '6'0		J - H	<i>7</i> ,1 O C
課		にわたる生活	課題を抱	える世帯	帯の増	加により	. 5	ァース	ワーカ・	ーの業	務	が煩雑イ	とし増大し	てい	る。
題		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	#IC C 10				` '						до дито	-	• ·
問題	点・課題の改	大善策													
	令 和	12年度に取り			令	·和2年度	に実	施した	t <u>-</u>		4	合和3年月	度以降に取	り終	l¢;
		体的な改善内				大善内容:							的な改善内		
		下、最低限必要		を押下						成	丸 t	1 111	止に十分に	-	音を
		下、取仏阪必∶ 問調査活動を				たで始ま							訪問調査流		
1		_{四酮且石動で:} 握に努める。	大心し、			明調査に 問調査に							の生活状況		
	/ロ・ハハル V/ TG:	ルエトカいる。		た。	ا ۱۱ ۱۱	コミュー	, v./L	. J _ (_ //			以休設日 こ努める		U U J [ひ、甘まい
	As alle Assets a						34 / ·	ı							
		して業務の切り				こより突							ステム導力		
2		ことにより、				ったが、							業務の適正		や分業
		負担軽減と適	止化を凶			とにより			咸の効果	⊧ の	幼り	未 検証を	進めていく	• 0	
	る。			を上	けるこ	ことがで	さた	0			_				
		績内容を踏ま:				の状況も					座扌	ムいにな	っていなし	∖世ः	帯につ
		口座払いへの	変更を積			テースに							て口座振り	<u>\</u> のi	勧奨の
3	的に進める	0				牛数の増	加に	つなし	げること	: 取	り糸	組みを行	っていく。		
				がで	きた。										
Itle	/ 宇佐	22	□ □		tte	0		IJ.	7.0	В		0	(고)		
施状況の実	(実施	22	区	未実	加也	U		区	不明	Л		U	区)		
状公															
況空															
天															
況議	平成26年度	二月会議	冬季加算								_				
~ 会	平成27年度		生活保護					□分に	ついて						
要質	平成30年度		生活保護												
旨問			エアコン				要性	生につ	いて						
) 状	令和2年度	決特(W数及び	事業委託	tにつ	いて									

No₁

																NUT
事務署	丰 業	ミコード		08-02	2-06	j				<u>略プラ</u>					財務	○人事
事務事	巨業	生夕		住宅	+ 助	1				課名		业部生活福	ā祉課	課長名		伊藤
	۲v	С -Ш		1 0]/\					当者名	米L	Ц		内線		2638
事務事	業	を構成する	る小事	業名		01-0	1-02	住宅扶助	<u>助</u>							
		事業コー														
	•					0.										
		きの種類			ŧ	(〇 3年		2年度)			投事業		それ以外		続事業
開始年			昭和		(1950	0)		根拠			呆護法・同 放				
終期記				無無		()	年度	法令等			り基準(厚生				
実施基	長準	<u>É</u>		令基準	準内			〇区独	自基準	함	┣画区	☑分	O i	画	● 非	計画
行	귮	評価	分里		I		建康都市									
		体系	政領		02				そ心して	暮らt	<u> </u>	社会の形成	<u></u> ξ			
7			施領		12		导者の自									
												間代、敷金				
目的	,		こして	支給す	「る	ことで、	最低限度	度の生活	を保障す	すると	とも	にその自:	立を助長	きすること	:を目	的とす
П μ.	۱ ۱	る。														
対象	≠	生活保護	養受給:	者のう	うち(借家等に	居住して	ている者								
メリタイ 等	8															
₩																
		被保護者	の必	要に応	ふじ、											
		[住宅技	き助の!	範囲]				• 間代、								
								住宅維持		の補償	多等)					
		[住宅技	き助の!	実施原	[則]			原則とす								
												設に委託		0		
内容	-	F 13 -1- 11	. .									者に交付す	⁻ る。			
		[住宅技					賃 等		#帯 53,							
		(平成2	/牛/月	1以降.)	〇敷						上世帯 388				
		/ 人 壬ョ ೧	- 4 -	151 17/2 \								上世帯 14	5,500円。	以内)		
		(令和3:	午4月	以降)		〇住宅紀	性持賀	一般基	◆準 124	, 000P	以以	内(年額)				
		(以前は														
		平成21年	度					更(69,80								
								基準 (1.3		いとす	トる。)				
		平成22年						里納付開								
		平成27年	₽度				の変更	(世帯人	数区分位	り細分	化・	単身世帯	に床面積	別の住宅	₹扶助.	上限額
経過	<u>1</u>	— - 1: 0 0 5			f設)				/\ // .	,	- 13		<i>L</i>	III m		
		平成30年										宅扶助費				书
		令和2年										額)→ 1/2				4~1 .
		(令和2	年3月	厚牙省	通							、被保護				
							_	百に対し	、生活和	天沈 な	22	踏まえた	つえで、	原則代類	里納1寸。	ح
						9	る。									
		生活係	R護法	に基っ	ゔく゠	事務事業	のため』	必須であ	る。							
必要性	έl															
		(1直営	ı)	(直学のは	분 수 ●	党勤職	昌	0:	会計年度任	1田職員)		
実施	į							ッロ 寸を適用					工川蝦貝	/		
方法		旦按、	似木	で 日に	- X i	でする。	10年初1	りを適用	し豕土っ	手に又	払り					
									指標の	# 我						
		事務事業	on ett E	田レナ	- Z +	ᄕᄪᄸ			付示りた	性的				指標に関	ナスョ	
指		争伤争未	ひり及う	未 C 9	ବ୍ୟ	日保石	20年中	二左曲	り左曲	3年	度	目標値		扫信に送	19 O Ē	π 191
7.							30年度	元年度	2年度	見込		(8年度)				
		住宅扶助	費家賃	代理約	対付σ	D割合	00.7	07.0	20.1	- 0	0 0	30. 0	福祉事務	务所から大	家等に	直接支給し
	1	(%)					26. 7	27. 3	28.	2	9. 0	30.0		きの割合。		
		住宅扶助	費家賃	代理糾	村	(民間)	10 5	21 0	20. (0	2 -	05.0	一般賃貸	住宅入居	世帯の	うち、代理
標		の割合(19. 5	21.0	22. (2	2. 5	25. 0		ている者の		
		住宅扶助	費家賃	代理約	村	(都住)	75.5	70.0	75 (7.	6 0	80. 0	都営住写	已入居世帯	のうち	、代理納付
	<u>ડ</u>)	の割合(%)	,			75. 5	70. 9	75. 3) /	6. 0	80.0		る者の割合		
		事務	事業の	り分類						/ \ .le=						
	3	<u> </u>	, ,,,,,,,,		l年度	ŧ				分類に	こつし	いての説明	・意見	等		
	J.	一尺		4	ード	κ.	上 江	空罐注 -	보べノ	ス弗 ブ	女 ロ	リ、継続す	7			
							生活1	木砖広に	本 ノく	性貝じ	めりり	、 本で で 9	る 。			
	¥	継続		;	継続	Ē										
							Ī									

No2 (単位: 千円)

										立:千円)					
	・決算額等の推移		27年度	28年度	29年度			元年度	2年度	3年度					
予算									2, 776, 493						
	額(3年度は見込み)	\								2, 790, 018					
実	事項名(3年度は見)	∆み)	27年度		29年度			<u>元年度</u>	2年度	3年度					
績	家賃延世帯数	Œ 00 /\s	58, 54				8, 252	56, 739		56, 000					
の	家賃支出額(千円)*家														
推移	その他住宅費*敷金・住	七維持質	182, 88	7 173, 943	170, 6	ooz 16	6, 719	167, 470	158, 358	165, 000					
	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \														
<u> 予算</u>	・決算の内訳			会和0年度	(計算)		1	△ 4⊓0 <i>t</i>	二年 (マ答)						
節	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	金額(千円)	節	令和2年度 主な事		金額(千円)	節		<u>∓度(予算)</u> Eな事項	金額(千円)					
	費。家賃・間代等			<u>エム争</u> 家賃・間代等				家賃・同		2, 790, 018					
1人可	()	2, 711, 009	沃 明貝 3	水貝 門 川 (元	F	2, 770, 433	汉则 其		到10寸	2, 730, 010					
									(単位	立:千円)					
	勘定科目	元年度				勘定科目		元年度	2年度	差額					
	給与関係費	68, 0				方税等		0	0	0					
<i>2</i> -	物件費		0	0	0	庫支出金	 1,		1, 863, 263						
行政	維持補修費		0	0	0 1 都	支出金		27, 336		4, 013					
口口	行扶助費	2, 711, 0	69 2, 675,		317 公分	担金及び:		0	0	0					
ユ ス			0	0			手数料	•		0					
 					-					▲ 160					
計															
算		10, 5								▲ 20, 5/1					
書		0 700 7	~	~ I				•	·	0 • 00 F71					
		2, 789, 7					(d) = (e)			20, 5/1					
		\		-) + (b) A		V	<u>0</u> 20 571					
										2 0, 371					
備									J C U · Ø 。						
考	11,150,100,11-1-1-1-1-1-1	(P() ()		-0. / Дл	- JC J	, ,,, , , , , , , , , , , , , , , , , ,									
問	世代表別の表記の表記を表します。														
題	特別収支差額(f)-(g)=(h) 0 0 当期収支差額(e)+(h) ▲ 842,127 ▲ 862,698 ▲ 20,5 行政費用のうち、住宅扶助費が約97%を占める。被保護者数の減少等による支出減となっている。 行政収入についても、被保護者数の減少等により、国庫負担金が減となっている。 ○被保護者の適切な住居の確保を支援するため、公営住宅の入居への勧奨が必要。 ○保護費が住宅費を下回る場合は代理納付はできないため、一部でも納付できるよう住宅供給公社等への働きかけが必要。														
点	行政収入についても、被保護者数の減少等により、国庫負担金が減となっている。 ○被保護者の適切な住居の確保を支援するため、公営住宅の入居への勧奨が必要。 ○保護費が住宅費を下回る場合は代理納付はできないため、一部でも納付できるよう住宅供給公社等への働きかけが必要。 ○被保護者である単身の入居者が亡くなった際の、居室清掃や私物処理等で生じる貸主の負担について、処理														
-	〇保護費が住宅費を下回る場合は代理納付はできないため、一部でも納付できるよう住宅供給公社等への働きかけが必要。 〇被保護者である単身の入居者が亡くなった際の、居室清掃や私物処理等で生じる貸主の負担について、処理														
課	寺に安りる栓貨をガハー 	でさるほ	換への加 。	へを貝土に偶	さかける	の必要か	める。								
題															
問題	点・課題の改善策														
	令和2年度に取り	組む		令和2年度	に実施し	<i>t-</i>		今和?在 ₽	 度以降に取 ^し	月組まり					
	□ 〒和2年度1〜取り ■ 具体的な改善月			改善内容:					りな改善内 りな改善内						
		· ·	路日左	1 11 1	- 1			1 111		•					
	簡易宿泊所居住の被保護 て、ケースワーカーから			『泊所居住の』 『に入居する					ーが、簡易 の生活状況						
1	への入所の勧奨を行って			ころ店りる		., o [L 🤝			の生活状況 住宅への入						
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. • • •		ノンローではい	110/-0		行う		<u> </u>	ᄱᄥᅎᆫ					
	 	1=#±1−±	/上 T四 6-1	けについて	=H pp	エ仕ナー			·	和の左曲					
	┃民間アパート居住の被係 ┃家賃の代理納付を勧めて			付について					により、令 宅の共益費						
2	涿貝の1\垤納1)を勧め(. , , ,	進め、	代理納付の	け 奴 か 瑁	んに。			:毛の共益質 :行っている						
							אוסו	土型りて	11 7 (1.0)	0					
							/D 0^		. 	± 1-					
	_		-						きかけとと						
3									ーが、亡く 等に対して						
									・ 支援する						
									· ~ 1& 7 0	V					
施他	(実施 22	区	未実施	0	区	不明	明	0	区)						
施状況の実															
況の															
严美															
				5 D O // 10	公山 / 十 / 一 ~	ンレー									
況議	平成22年 一定 住宅技					J () (
〜 会	平成26年度 二月会議	住宅扶助	費の基準で	 皮定について	•	J 6 1 C									
へ 会 要質	平成26年度 二月会議 平成27年度 六月会議	住宅扶助	費の基準で		•	J (
へ 会質 旨問	平成26年度 二月会議 平成27年度 六月会議	住宅扶助	費の基準で	 皮定について	•										
へ 会 要質	平成26年度 二月会議 平成27年度 六月会議	住宅扶助	費の基準で	 皮定について	•	J (

		_								
			車致車業の	成果とする指標名			指標の推	移		
指		+	事伤争未の)	以来 と 9 る 拍 保 石	30年度	元年度	2年度	3年度 見込み	目標値 (8年度)	竹保に関する就労
	(1	給食費代理網	内付の割合(%)	91. 7	98. 6	97. 7	97. 9	98. 0	福祉事務所から学校長に直接支払っ ている者の割合。
標	(2	被保護世帯の)児童生徒数(人)	254	216	203	180		
	(3								
			事務事業	業の分類				、地工 /	0====	
		3:	年度	4年度			5	が類につ	いての説明	I・恵兄寺
		ŕ	継続	継続	生活仍	保護法に	基づく経	費であり	リ、継続す	ঠ ঃ

No2 (単位: 千円)

予算額 38, 787 39, 840 40, 373 39, 029 39, 555 28, 453 29, 394 決算額 (3年度は見込み) 38, 130 39, 388 38, 195 33, 592 25, 402 25, 972 29, 394 実 事項名 (3年度は見込み) 27年度 28年度 29年度 30年度 二年度 2年度 30年度 30年度 2年度 30年度 30年度 2年度 30年度 2年度 30年度 2年度 30年度 30年度 30年2年度 30年2日 30日2日 30日21日														立:千円)
			央算額等の推移									元年度	2年度	3年度
東国名 (3年度は見込み) 27年度 28年度 29年度 30年度 30年度 34年度 47年月 30月 31月 31月 31月 31月 31月 31月 31月 31月 31月 31														,
「		額		- \										
の 教育基準費(千円)		. ابد		み)										
# 在 その他教育費(千円) 28,802 29.514 28,603 25,229 16.142 17,323 17,000														
7 章 ・ 決奪の内訳														
茶町元年度 (決奪)		て	の他教育質(十円)		28, 8	302	29, 514		28, 6	93 2	5, 229	16, 142	17, 323	17,000
第 上な事項 ************************************		24	1.答の中記											
### 1	<u> </u>	• <i>7</i>				<u> </u>	コクケー 中 /	ንተነ የ	<u>\$</u> \			△チ⊓ウク	工	
基準教育養等	存在			全 類 (エ田)	合合	丁 们 			异/	全額 (千田)	俖			全額 (千田)
勘定科目 元年度 2年度 差額 勘定科目 元年度 2年度 差額 物件質 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0														
制定科目 元年度 2年度 差額 制定科目 元年度 2年度 差額 特別	1人均1.	早	坐午我月貝寸	20, 402	八岁貝	坐干	扒月貝寸			20, 400	八切貝	坐 千 秋 日	7 只 寸	20,004
制定科目 元年度 2年度 差額 制定科目 元年度 2年度 差額 特別														
制定科目 元年度 2年度 差額 制定科目 元年度 2年度 差額 特別														
制定科目 元年度 2年度 差額 制定科目 元年度 2年度 差額 特別														
制定科目 元年度 2年度 差額 制定科目 元年度 2年度 差額 特別														
制定科目 元年度 2年度 差額 制定科目 元年度 2年度 差額 特別														
制定科目 元年度 2年度 差額 制定科目 元年度 2年度 差額 特別						•							(単化	立:千円)
総			勘定科目	元年度	2 全	F度	差額			勘定科目		元年度		
特件費								71						0
行政				, .				Λ	国	康支出名	È	27, 001	19, 094	▲ 7, 907
行扶助費			維持補修費		v			0	行都	支出金				▲ 79
日本の		行	扶助費	25, 4	02 2	5, 972	5	70	分分:	担金及び1	負担金		0	0
日本の大阪・黄田可当金線入版		政	補助費等		-								_	0
計						0		0		<u> </u>			•	0
算書 書 書	計	用	不納欠損・貸倒引当金繰入額		ŭ			ΥL						▲ 7, 986
書 特別費用(g) 66,011 58,259 本7,752 論本改業経(g)・(g) 4 38,864 39,098 234 (h) 数 19 (h) 長 234 (h) 大変	質			5, 4	65	4, 314	▲ 1, 1					38, 864	4 39, 098	▲ 234
特別費用(g)					ŭ								•	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)				66, 0	11 5	8, 259	▲ 7, 7				(d) = (e)	38, 864	▲ 39, 098	▲ 234
備					0	0							٥	0
で			_		•									
問題点・課題の改善策	考 問	金:	が減となっている。 被保護世帯の児童・生作	走の健や	かな成長									
問題点・課題の改善策	点 • 課	. ري	、予仮も継続していくが	必安かの	ବ .									
令和2年度に取り組む 具体的な改善内容 引き続き給食費の代理納付を積極的 に実施していくとともに、滞納世帯 に対して代理納付への切り替えを働きかける。 滞納世帯の把握に努めながら、教材 費の代理納付を積極的に実施してい く。 (実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区) 本部2年度以降に取り組む 具体的な改善内容 令和2年度の実績を維持するとと もに、現在自主納付している未滞 納世帯についても制度の理解に努める。 「学校等と連携し滞納世帯の状況把 握を行ったうえで、代理納付数増 に努める。 (実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)		느	一田田の北羊佐											
具体的な改善内容 改善内容および評価 具体的な改善内容 引き続き給食費の代理納付を積極的に実施していくとともに、滞納世帯に対して代理納付への切り替えを働きかける。	問題	点 .	・詳趄の改善策											
 ① に実施していくとともに、滞納世帯														
 □ に対して代理納付への切り替えを働きかける。 □ に対して代理納付への切り替えを働きかける。 □ に対して代理納付への切り替えを働きかける。 □ 滞納世帯の把握に努めながら、教材費の代理納付制度の周知を行ったりまで、代理納付数増に努める。 □ である。 □ である。 □ では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で														
きかける。	1													
滞納世帯の把握に努めながら、教材				り替えを			きを差し	51 L'	<i>T</i> =97	∠ 1%.			ても制度の	埋解に努
② 費の代理納付を積極的に実施していく。 た結果、令和元年度の18.8%を上回 据を行ったうえで、代理納付数増 に努める。 ③ (実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区) 施性状のに実施している。 大夫施 0 区 不明 0 区) (実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区) 区)			-								_			
② く。 る21.2%の代理納付率となった。 に努める。 ③ (実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区) 施区のの実況実 況議(会要質旨問														
(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区) *** *** *** *** *** *** ***	(a)			実施して									えで、代理	納付数増
他 (実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区) (大の) 次次の (大の) 次議 (会 要質 旨問		< .	0		621	. 2%の	代埋納付	~	となっ	o <i>T</i> c。	に努	かる。		
他 (実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区) (大の) 次次の (大の) 次議 (会 要質 旨問		L			L									
他 (実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区) (大の) 次次の (大の) 次議 (会 要質 旨問														
他 (実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区) (大の) 次次の (大の) 次議 (会 要質 旨問		1												
況議 〈会 要質 旨問	3													
況議 〈会 要質 旨問														
況議 〈会 要質 旨問	. 4h		(実施 22	区	未宝	施	0		区	不用	月	0	区)	
況議 〈会 要質 旨問	施区			_	小大	/IC	U			-1.6	, ,	J	<u>-</u>	
況議 〈会 要質 旨問	状の													
況議 〈会 要質 旨問	温実	1												
(会) 要質 盲問														
要質旨問														
盲問	へ会													
^U 状	女貝片明													
	日間													
		<u> </u>												

介護扶助を利用するみなし2号被保 95 108 92 121 みなし2号被保険者数 2 標 険者数 事務事業の分類 分類についての説明・意見等 3年度 4年度 生活保護法に基づく経費であり、継続する。 継続 継続

												(畄人	No2 ☆・壬四)
(単位:千円) 予算・決算額等の推移 27年度 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 予算額 331,725 372,861 385,877 378,842 381,870 385,232 380,244 決算額(3年度は見込み) 326,870 330,454 351,398 354,076 361,814 349,744 380,244 実 事項名(3年度は見込み) 27年度 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度													
		()											
		(3年度は見込み)									,		
			み)										
	居:	<u>宅介護人数</u>	,		349	2, 457		2, 5		2, 733	3, 048		
		設介護人数		,	78	80			79	80	73		80
推		mritt noch tert											
移													
予算	· 爿	央算の内訳			•		<u> </u>		_			•	
		令和元年度(決算)			令	和2年度(決算	算)			令和3	年度(予算)	
節		主な事項	金額(千円)	節		主な事	項		金額(千円)	節	=	Èな事項	金額(千円)
扶助	費	居宅介護費等	361, 814	扶助費	居日	它介護費等			385, 232	扶助費	居宅介	護費等	380, 244
					1								
		#1 == 4.1 ==		- 1 ^		34.1-			₩¥ p 4 5 ₹.1 F				立:千円)
		勘定科目	元年度		年度	差額	0.4		勘定科目		元年度	2年度	差額
		給与関係費	35, 1		32, 12		_		方税等		075 000		0
行		物件費		0		0	0		庫支出金	Î	275, 269		▲ 15, 028
政		維持補修費	004 0	0		0	0	11.47	支出金	5. 10. A	12, 050		▲ 3, 600
		扶助費	361, 8		19, 74	4 ▲ 12, 0	1/0	IID D	担金及び1		C		0
ス		補助費等		0		0	0		用料及び	于数料	000	_	0 107
-		減価償却費		0		0	0		の他	=1 ()	933		3, 107
計		不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	4 05	0	0		政収入合		288, 252		▲ 15, 521
算		賞与・退職給与引当金繰入額	5, 4		4, 95				支差額(a)-			▲ 114, 087	84
書	ļ	その他行政費用	400.4	0 00	0.0.1	0 4 15 0			収支差額		<u> </u>	•	0.4
	4+1	行政費用合計(b)	402, 4		86, 81	8 🛦 15, 6				(d) = (e)		▲ 114, 087	84
		別費用(g)	<u>3</u>	35	A				収入(f)	\ .	<u> </u>	•	0 411
		別収支差額(f)-(g)=(h) 政費用の約90%を介護排										▲ 114, 095	
備		政員用の割90%を介護1 入についても収入減と7											
考	る。		4 7 6 6 1	თ _ი (ს	7161]以从八〇/	םניו	1/10.	工识从	工心体	成员儿员.	並 リカララスス	列良力での
問		<u></u>	こついて	介護券と	<u>- の =</u>	Fェック等	の官	管理カ	必要で	あるが	、みなし	2号(65歳未	満)対象
題	者	の状況がシステムで対応	芯出来で	いない。									
点													
-													
課													
題											·		
問題	点•	・課題の改善策											
		 令和2年度に取り約	月す:			令和2年度	二字	■無し	<i>t-</i>		今和3年	度以降に取	り組む
		具体的な改善内!				改善内容						めな改善内	
	<u>.</u>	護券と介護扶助費請求(<i>.</i> }.≡#		介護扶助				立仁 .		活用し、介	
		護券と冗護扶助貧請XI 、効率的な管理ができる。										た活用し、ゴ さについてみ	
1		、効率的な官垤かでされ ステムで対応する。	υ Α			け準備し		. ⊂ '∂	5 71-0			ていてのことでいる。	
	 			137 13/	, 1-1	· / — Inti O I	_0					に努める。	H□ 41 41. 1.□.
	-			-						+	·		
2													
				+									
3													
		1/											
施他		(実施 22	区	未実	施	0		区	不明	月	0	区)	
狀区													
施状況の実													
""実													
況議													
〜 会													
要質													
旨問													
) 状													

事務事	事第	業コード		08-02-	-09				戦	<u>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</u>	ン	○協働	•	 業務	0	財務	O	<u>-</u> 人事
事務	事第	美名		医療技	夫助					課名 <mark>さ</mark> 者名 カ		部生活福		課長	名		伊藤 2623	
事務事	業	を構成する	る小事	業名	0	1-01-05		医療扶助			J 1- 12-12 -				lw.			
		事業コー																
		業の種類				3年度	Ó	2年度)		建設等			つ それ			続事業	ŧ
開始。終期記			昭和	25 無	(1950)	年度 年度	根拠 法令等			護法・同が 基準(厚点					長通達]	()
実施			●法	令基準		都基準		〇区独			区分			計画		●非		
		評価	<u>分</u> 里 政策			E涯健康も 職者や			安心して	墓らせる	る社会	金の形成	,					
手	耒	体系	施領	ŧ	12 低	[所得者の	の自	立支援										
目的	ל	を医療技	扶助と	して支	給する。	.			に基づき) t= 8	かに必	が要な新 	径費
対象:	者								きないも									
内容	4/3	[医療	扶助の)範囲]	1 診察 4 居字 5 病際 系則] 1 2 3	察 2 薬済 宅に 現 現 で は 総 で は 総 の に り の に り の に り の の の の り り り り り り り	剤で源付目付た事 又 懇別	は治療を 療人の人 よりでする またまを 情がある	の料理及びだいのととう。ためためたけ合う。たけらをあるたけらをあるというというというというというというというというというというというというというと	医学の療物の現場での原養物の療養を関いた。	型養に付きた に付き施	・手術及 伴う世話・ う世話・ ができな は、金銭網 お者に委	びその 話その他 その他 いとき 給付に 話して	他の治他の治他の治 他の看護 か看護 おり行 より行 でう。	療力 護 省でか	6 移 ないと	送 : き、	
経過	대기	生活扶助 平成19年 平成26年 平成27年 平成30年	E度 E度 E度	医生は平つ厚厚生な10原生、成い生生活っ月	5年6年27て労労保たよ27年も働働護。りまと月報る追さ	のの日のり知正しまる。のの日のり知正のり知正のり知正のり知正のののといい。 発	こ制の費精りり 品件度見まれ、、の	い、のまた。 の、のまたの、ののまたののでは、 ののまたののでは、 ののでは、 の	立25年7年7年7年7年7年7年7年7年7年7年7年7年7年7年7年7年7年7年7	1日以降 1日以降 1日のは 1日のに 1日のに 1日の 1日の	条はる にめ援	生活保護 登録の 法律の いてた。 れた。	法の指 から指 施行に位 応の指 令和3年	記定医療 記定制度 伴い、 示が出 に1月よ	機関を設定を	変更。 :護者 た。	IC.	
必要怕	生	生活保護	を法に	基づく	事務事第	業のため	必多	頃である	0									
実施	<u> </u>	(<mark>1直営</mark>)				常勤職員									
方法		指定医 支払は、	ュ獠機∣ 社会∙	関等で 保険診	現物給作 療報酬3	寸。医燎 支払基金	:沃耳	刃実施は 委託。一	、専門的 部、移送	〗知識・ 養費、治	判断 療材	・寺を要 ・料費は	し嘱託I 福祉事	医3人Ⅰ 務所で〕	に委 支払	嗎。 い。	医療質	(0)
		事務事業							指標の推	推移				指標は			 兑明	
指						30年	F度	元年度	2年度	3年度 見込み		目標値 8年度)						
	1	後発医薬	品の使	用割合	(%)	7	'6. 1	84. 7	84. 4	86.	6	85. 0	国目標	は80%				
標	2	入院件数	の割合	(%)			3. 1	3. 3	3. 1	3.	1		年間医 割合	療扶助何	件数	のうち	入院件	数の
	3	他法他施	策への	移行件	数		-	-	30	2	0		難病、	精神通	院等			
			事業の							分類につ	ついて	ての説明	・意見	!等				
	3	年度		41	年度	世	- 注 (保護注に	基づく組									
	ń	継続		絲	迷続		- <i>1</i> 口	小咬仏に	金ンへ	· 東 (0)	<i>,</i>	中四 496 9	· v o					

												(崔		IOZ 千円)
予質	 ・決算額等の推移		27年度	: 1 2	8年度	294	丰度	30年	E 使	元 组	F度	2年度		Tロ) 年度
予算			5, 788, 54									6, 299, 146		
	···· 額(3年度は見込み)		5, 769, 77	,	,							5, 592, 893		31, 001
実	事項名(3年度は見込	み)	27年度		8年度		丰度	30年		元年		2年度		年度
	入院延件数	- / /	5, 3		5, 376		5, 541		, 609		, 802			5, 300
	外来延件数		83, 10		83, 820		4, 331		, 339		2, 106			76, 000
	歯科延件数		14, 0		14, 541		5, 069		, 772		I, 560			13, 000
	調剤延件数		65. 8		66, 854		7, 155		. 084		5, 731	60, 55		61, 000
	・決算の内訳		00, 0	<u> </u>	00, 00 1		7, 100	, 00	, 00 1		, , , , , ,	00,00	<u> </u>	01, 000
1 7	<u></u>			令和	2年度(決算))			숙	3和3年	F度(予算	()	
節		金額(千円)	節		主な事			額(千円)	節			な事項		盆額(千円)
	費入院費等	6, 181, 088	扶助費	入院	書等		6,	362, 869	扶助	費入	院費等	<u> </u>	5	, 981, 001
					-							-		
														千円)
	勘定科目	元年度			差額		勘	定科目		元年	F度	2年度	7	差額
	給与関係費	77, 3	59 40	, 489	▲ 36, 8		地方				0)	0
λ-	物件費		0	0		0 =		支出金				4, 088, 53		
行	維持補修費		0	0		0行		出金		150), 657	158, 16	4	7, 507
政	行 扶助費	6, 181, 0	88 5, 592	, 893	▲ 588, 1	95 以	分担金	金及び負	担金		0)	0
	政 補助費等		0	0		0 1	使用制	料及び手	-数料		0)	0
ス	費減価償却費		0	0		0 ^	その	他		48	3, 673	45, 70	A	2, 973
計	用不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	0		0	行政	収入合詞	† (a)	4, 711	, 279	4, 292, 39	3 🔺	418, 881
算	賞与・退職給与引当金繰入額	12, 0	29 6	, 245	▲ 5, 7	84 行政	数収支差	≜額(a)−(l	o)=(c)	▲ 1,5	59, 197	▲ 1, 347, 22	9 2	11, 968
書	その他行政費用		0	0		0 金	融収:	支差額	(d)		0)	0
	行政費用合計(b)	6, 270, 4	76 5, 639	, 627	▲ 630, 8	349 通常	常収支差	≜額(c)+(€	d)=(e)	▲ 1, 5	59, 197	▲ 1, 347, 22	9 2	11, 968
	特別費用(g)			, 055		54 特					0)	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)											▲ 1, 358, 28		01, 014
	行政費用の約99%を医療技 行政収入についても収入													
問題点・課	なっている。 ○頻回受診・向精神薬の ○他法優先の原則に基づき										が必多	要である。		
題														
問題	点・課題の改善策													
	令和2年度に取り約 具体的な改善内				和2年度に 善内容は						具体	度以降に取 的な改善の	容	
1	自立支援医療などの他法 用のために他課との連携: 図る。		こ が受り 出し、	ナられ 医療	傷病名の名と思想機関に経済に繋げる	われる 確認後	対象	者を抽	連		他法	力を得な 他施策の		
2														
3														
_佐 他	(実施 22	区	未実施	包	0	区		不明]	0		区)		
施状況の実														
		そのロ田	旦弗にへ	ハア										
況(要旨)	平成13年 一定 入院患等平成27年度 九月会議 完 令和2年度 決特 医療扶	ジェネリ	ック医薬	品の利	削用促進	につい	ハて							
1/														

		発示で1	「つ有の中詞に対して	大助で1〕	<i>)</i> 。				
		市攻市場	の成果とする指標名			指標の推	移		指標に関する説明
	指	争伤争未	の成果と9る相保石	30年度	元年度	2年度	3年度 見込み	目標値 (8年度)	拍標に関する説明
		①高等学校	就学者数	90	94	93	95	100	生業扶助支給世帯数(学級費支給実績数÷12月)
	標	② 技能習得	費 延べ件数(件)	21	16	15	18	20	
		3							
I		事務	事業の分類			,	しおこへ	ハイの部門	
ľ		3年度	4年度			7	が知にフ	いての説明	· 思兄寺
		継続	継続	生活化	呆護法に	基づく経	費であり	り、継続す	る。

(単位:千円) 27年度 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度

		領寺の推り	9		2/平		20年度		手ら		平	兀平皮	2年度	3年度
予算額	額				65, 5	34	65, 833	8	1, 22	8 66	, 121	62, 680	66, 001	84, 539
決算額	額 (3年	F度は見込	み)		56, 6	32	60, 191	5	8, 68	57	. 172	62, 407	61, 463	84, 539
実		項名(3年		A)	27年		28年度		年度		年度	元年度	2年度	3年度
				07)										
		扶助支給延				221	230			41	233	274		
の	生業技	扶助支給延	件数		3,	385	3, 430		3, 3	55	2, 953	2, 591	2, 635	2, 700
推					·		-							
移														
	L													
予算	<u>・決</u> 算	の内訳												
	숙	和元年度	(決算)			令和	D2年度(決第	I)			令和3	年度(予算)	
節		主な事		金額(千円)	節	1	主な事			金額 (千円)	節		主な事項	金額 (千円)
			7.			# 87		·,		66, 001				84, 539
扶助 :	質	祭費等		02, 407	扶助費	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	負守			00, 001	扶 助的	費 葬祭費	寸	84, 939
													(畄,	位:千円)
		#4 == 7.1 =			= I o	左京	¥ #r			## ====================================	, ,	一一一		
		勘定科		元年度		年度	差額			勘定科目		元年度	2年度	差額
	給-	与関係費		33, 4	89 (32, 041	▲ 1, 4	48	地	方税等		('	ľ
		件費			0	0		0 ,	_ 国	庫支出金	È	42, 529	44, 292	1, 763
行		<u>' </u>			0	0			丁契	支出金		1, 837		▲ 1, 182
政				00.4	•			I A A	外兴	<u>又山並</u> 担金及び:	色ねる			
ı I	行扶			62, 4		61, 463		— ш	v			(,	0
コス		助費等			0	0		0	Λ	用料及び	手数料	(·	0
	費減	価償却費			0	0		0	マ	の他		(0	0
- 1			当会繰入好		0	0		0		<u> </u>	±+ (a)	44, 366		581
計				ГО	•	•		~						
算		・退職給与引		5, 2		4, 942							3 ▲ 53, 499	3, 239
書	そ(の他行政費	門		0	0				収支差額		(, o	0
	行i	攻費用合計	- (b)	101, 1	04 9	98, 446	▲ 2.6	58 i	通常収:	支差額(c)+	(d) = (e)	▲ 56, 738	3 ▲ 53, 499	3, 239
		費用(g)	,	0	0		0 特別収入(f)				. () 0	- 0	
			(~) = (b)		·	0) , (b)	▲ F6 720	,	2 220
		双支差額(f)			0								§ ▲ 53, 499	3, 239
備	行政輩	費用では、	扶助費が	約62%を	占めてし	ハる。	被保護者	数の)減少	♪が扶助	費の減	につなが	った。	
考	行政場	又入では、	国庫負担金	金として4	44. 292.	280円	の収入が	あっ	た。					
題点・課題		コナ禍で失 る積極的な										いる。よ	って、今後し	は対象者に
	 点・課	題の改善領	 ŧ											
		A107	由 1- 1- 1- 1- 1-	:0+\		^	和企工	_ _	+&	+		A100 F	中 い 吹 に 中	1140+
			度に取り約					に実施した					度以降に取	
		具体的	な改善内	容		改	を善内容は	およる	び評	価		具体	的な改善内	容
	宣生 世	学校就学を	古垣十2-	t- xh =±:	<u> </u>	学技员	沈学を支持	至十	スナー	か <u>**</u> *	4 -	车分块铁岩	学を支援する	ため 目
1		に対し、生					ノ、電話)						亥当世帯に対	
\cup	積極的	りに呼びか	けていく。] 質支約	合申請を	貢極	的に	呼ひかり	ァ 提付	供を行つ で	て申請につな	にける。
					た。									
	++ 45 7	11年本	日のゴロ	+ w 7 ±		. ਚਰ ८ ० ±	± n 🖂	Ω ' ⊤		∞ フ⊥	<u></u>	ᄍᆂᄺ	* 1. ~ '= # -	· 😡 🕶
		習得費の一					貴の一層(との連携を	
		忧労支援員	との連携	を密にし			スワーカ-						ヽ、技能習得	
2	いく。				制度	をにつし	いての周知	印を	図っ	た。	を	促進して自	自立につなけ	ずる。
	ļ													
	Ī										1			
_														
3	Ī				l						1			
					L_									
/H1	(実施	22	区		≥施	0	F	<u>×</u>	不見	IE	0	区)	
施農		/\n=		-	ハブ	C/105		Ŀ	_	-175	, ,		<u> </u>	
状 ^区	Ī													
流の														
施 状況 の実														
況議														
_ 슈														
要質	Ī													
要旨)														
り状														
1/\	<u> </u>													

予算・決算額等の推移

_										
			車攻車業の	成果とする指標名			指標の推	移		指標に関する説明
	指		事伤争未の)	以来 と 9 る 拍 保 石	30年度	元年度	2年度	3年度 見込み	目標値 (8年度)	拍标に関する就明
		1	就労自立給付	†金給付世帯数	40	40	23	30	40	
	標	2	進学準備給付	 	12	15	4	25	20	令和3年度見込みには、令和2年対象 者9名を含む
		3	大学・専門学	^全 校等進学率	34. 78%	36. 84%	53. 33%	55%	60%	
			事務事業	業の分類				\ \\\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\	======	* = #
		3	年度	4年度			5	が類につ	いての説明	▪ 思見寺
		á	継続	継続	生活	保護法に	基づく経	費であり	リ、継続す	ర్ .

												(単作	立:千円)
	・決算額等の推っ	侈		27年度		28年度	29호		30호		元年度	2年度	3年度
予算				6, 50		5, 500		500		400	5, 268	3, 981	6, 150
決算	額(3年度は見込			1, 51		1, 376		079		484	3, 578	1, 849	6, 150
実	事項名(3年			27年度		28年度	29호				元年度	2年度	3年度
	就労自立給付金				22	19		25	5	40	40	23	30
	進学準備給付金	給付世帯勢	汝					_	-	7	15	4	25
推													
移													
予算	・決算の内訳												
	令和元年度				令和	口2年度						F度(予算)	_
節			金額(千円)	節		主な事			額(千円)	節		な事項	金額 (千円)
扶助						自立給付		1			就労自立		2, 950
扶助	費 進学準備給付	寸金	1, 900	扶助費	進学	準備給付	金		400	扶助費	進学準備	備給付金	3, 200
								_				())()	
	#1 7		— <i>j</i>	- 1 05	- r .	<u> </u>		#1	<u> </u>		— <i> </i>		立:千円)
	勘定科	目	元年度		F度	差額			定科目		元年度	2年度	差額
	給与関係費		7, 2		3, 133				税等		4 200	0 4 F20	122
行	物件費			0	0		0 行		支出金	E	4, 398	4, 530	132
政	維持補修費		0.5	•	1 040	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	沙 政		出金	3 11 4	163	175	12
_	行 扶助費		3, 5	-	1, 849	· ·	129 収		金及び負		0	0	0
ス	政 補助費等			0	0				料及び引	F剱科	0	0	0
-	費減価償却費	ᇌᄽᄼᄱᄀᅘ		0	0		0	その		=1 (.)	Ū	•	·
計	用 不納欠損・貸倒す		1 1	0	400		0		収入合		4, 561	4, 705	144
算	賞与・退職給与		1, 1		483				≜額(a)-(▲ 7, 439	▲ 760	6, 679
書	その他行政費		10.0	0 0 000 5, 465 ▲ 6			0 金融収支差額(c)+(d) 通常収支差額(c)+(d)				0 ▲ 7,439	0 ▲ 760	6, 679
	行政費用合言	T (D)	12, 0	0	o, 400 0	+				a)=(e)	1, 439	0	0, 679
	特別費用(g) 特別収支差額(f	\ (~\ - (b\		0	0		0 特別収入(f) 0 当期収支差額(e)+				▲ 7, 439	▲ 760	6, 679
	行政費用では、		全体の約9	v		41							
加用	り、扶助費の経												ノルバーム
考) (),()) <u>(</u>				() (10	— /			, 020, 0	,, ,,,,	127 (10 0)	J 720	
問	【就労自立給付						につい	いて、	自立	支援係が	が担う就労	う支援事業や	ゥケース
題	ワーカーと連携										. /	/ - =V===+ /	
占	【進学準備給付				有機	会を拡大	するだ	<i>−</i> Ø1;	こ、対象	家者へに	t 保護開始	台の説明時で	よら古い段
_	階で事前に周知	196627	い里安で	める。									
課題													
問題	点・課題の改善	策											
	佘和2年	度に取り糸	月す?		수	和2年度	に実施	1.1-			令和3年	度以降に取	り組む
		な改善内				女善内容:						的な改善内	
	個々の就労の可		_	めケー		一力一連				一部学		・ケースワ	_
	の定例的な連絡					を促した			NH C IZ			がら制度の	
	に、対象者への				/D / IJ (0					の就労意欲	
	層充実させる。	. I . 4-11 1 375 A	- /EJ //H C							る。		17U / J / EN H/	、 こ ホ ′ /
		次世 少	北土坪山	<u> М</u> Ж Ш	 	出土はか	ᅘᄱᄔ	+ ~~	亚酚		+ ~ * *	接合せよう	+- 14 - -
	自立促進事業の 連携を図り、対					成支援の と世帯が						機会拡大の ースワーカ	
	建協を図り、別 けにつなげる。	多の丁と「	ひの到版			こ四市から		- 人	.子/\0.			トを配付す	
•	いたしなける。			[進子]	大限	こ糸がつ	/ _0					↑で配刊9 ∵や時期を検	
										/支の	ᇄᄱᄭᄶ	、 ru 777 C 13	н 17 O 0
3													
施状況の実	(実施	22	区	未実	施	0	区		不明	1	0	区)	
紫区													
没の													
‴実													
況議	平成30年度 九	月会議 カ	大学進学	に伴う世	帯分	離につい	て		-				
要問													
旨問													
~ 状													

No₁

事務	事業	美コード		08-02	-13				略プラン				財務	〇人事
事務	事業	美名		法外担					者名 宅	•	基祉課	課長名 内線		伊藤 2628
		を構成する				02-01 02-02	自立促进入浴券	<u> </u>	支給事業	Ę				
及び予	算	事業コー	ド (3年	F度)		02-02 02-03	入院必需							
事務	事業	美の種類	〇新	規事業			2年度)		設事業		それ以外		
開始4			平成		(20			根拠		都被保護者				
終期記				〇無		(2025)		法令等		荒川区被保				
実施			分里	令基準		『基準内 健康都市	●区独	日基準	計画	区分	O 計		● 非	計画
		評価	政領					心して著	事らせる	社会の形成	 戈			
手	耒	体系	施領	ŧ	12 低所	得者の自	立支援							
										付要綱」及				
目的	5	美美施罗 ることを				文援に要う	る経費(の一部を	文給する	ることで、	本人及()	で帯の目	立の	促進を凶
		Ø – ⊂ ₹	נים 🗀 .	∠ 9∂	0									
- 计在:		被保護者	かう	ち福祉	事務所長力	が認める初	皮保護者	世帯						
対象:	百													
7		7 ± b 224 = 4	- 1≅ 1		O+r**-		ヒゅってチム	- > - 1-1-	1 1 2 0 7 3	I÷ ↓÷□↓ ₩	11 hh 0# 1	世 + + 4	A.\	
		【就労支 【社会参		動支援						装、補助教∘ することで				٢
		LILAS	/ /JH / LI :	3/1 X 1/X		こ、地域で				, 0 – – –	`	0 6 70 2	217 0	
		【地域生	活移	行支援						れるよう支		_		
		7 /7⇒ r⇒ 1≃	5 / # +	1≖ 1						る鍵交換費			k == +	
内容	3	【健康增	進文			間進賀(F した者に対			で健康」	増進を目的	として傾	[康官理院	袋 命 を	
		【次世代	育成	支援】					進学、	基礎学力向	上の観点	iから、小	\学1~	,
										• 冬季講座				
		平成16年 平成17年			京都による					て再構築実	佐			
		平成17年 平成17年								C 再構業表 こ基づき、		始		
		平成24年								業」に統合		.,,,		
		平成29年	度							給上限額の)増額、	対象者を	高校生	
経過	3			ま	でとする	等、金額な	2对家者	を拡大し	た					
		11.10.54						(W. 61 = 6		1 - 1 - 1		S. == 1:		
्र सम्ब	ш.	被保護者	の目	立の促	進を図る	ことで、国	目立支援	機能の強	化を促っ	すことがで	きるため)、必要性	E は 高	い。
必要怕	±													
		(1直営	ı)	(直営の均	場合 ●	常勤職員		会計年度化	千用職員)		
実施		①支給			, [時	(<u></u>		113 203 100 5		ZHI 1/21		,		
方法	<u> </u>	②支給	決定	被	保護者から	らの申請に	こ基づき	決定し支	給する。)				
								比価のお	± ∓⁄2					
		事務事業	の成点	■レす	る指煙名			指標の推 				指標に関	する	英 田
指		チカチベ		~ C)	ח. או דו מי	30年度	元年度	2年度	3年度 見込み	目標値			17 0 1	76-91
	1	就労支援	(就職	活動支	援)	32	30	3	10	25	5			
1 	(2)	次世代育	成支援	(学習	支援)	233	219	219	200	230)			
標	_													
	3	地域生活			宅清掃)	13	9	9	17	15)			
			事業の)分類				4	分類につ	いての説明	月・意見	等		
	3	年度		4	年度	116 1-6 4	a la		,,					
						地域社	歯 征区市	可付包秸	争業の	一部であり	、継続す	১		
	Ý	継続		肴	迷続									

	1102
	: 千円)
予算·決算額等の推移 27年度 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度	3年度
予算額 41, 288 37, 785 37, 615 37, 114 51, 837 49, 014	46, 110
決算額(3年度は見込み) 38,035 34,197 35,001 34,558 42,191 38,418	46, 110
実 事項名 (3年度は見込み) 27年度 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度	3年度
績 就労支援(延べ件数) 38 34 32 30 30 22	25
の 社会参加活動支援(延べ件数) 4 3 6 7 5 1	3
推 地域生活移行支援(延べ件数) 123 148 102 114 122 30	50
移 次世代育成支援(参加人数) 30 54 72 66 91 64	75
予算・決算の内訳	
令和元年度(決算) 令和2年度(決算) 令和3年度(予算)	
節 主な事項 🖟 🚉 (千円) 節 主な事項 🖟 金額 (千円) 節 主な事項 🔭 立本事項	金額(千円)
需用費 入浴券印刷 408 需用費 入浴券印刷 406 需用費 入浴券印刷 等	431
<mark>委託料 封入封緘委託 21 </mark> 委託料 封入封緘委託 21 委託料 封入封緘委託	26
役務費 郵送料 378 役務費 郵送料 347 役務費 郵送料 347 役務費 郵送料	378
扶助費 自立促進支援給付金等 41,382 扶助費 自立促進支援給付金等 37,644 扶助費 自立促進支援給付金等	45, 275

(単位:千円)

								\ I I	
		勘定科目	元年度	2年度	差額	勘定科目	元年度	2年度	差額
		給与関係費	459	3, 917	3, 458	地方税等	0	0	0
١,	_	物件費	809	774	▲ 35	_。 国庫支出金	0	0	0
	<u>;</u>	維持補修費	0	0	0	都支出金	14, 579	14, 004	▲ 575
	攺	行 扶助費	41, 383	37, 644	A 3, 739	以 分担金及び負担金	0	0	0
	コス	政補助費等	0	0	0	λ 使用料及び手数料	0	0	0
	^ 	費減価償却費	0	0	0	くその他	0	0	0
	 	用不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	14, 579	14, 004	▲ 575
1 位	当	賞与・退職給与引当金繰入額	71	604	533	行政収支差額(a)-(b)=(c)	2 8, 143	2 8, 935	▲ 792
1	算書	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
		行政費用合計(b)	42, 722	42, 939	217	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 28, 143	2 8, 935	▲ 792
		特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
		特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	2 8, 143	2 8, 935	▲ 792
			4 11 - 11 0 -		- 41 14	#			1000

行政費用では、扶助費が全体の約87%を占めている。物件費の内訳は、一般需要費405,622円、役務費347,219 円、委託料21,022円となっている。 行政収入では、自立促進支援金支給事業が都補助金対象事業であるため、14,004,000円の収入があった。 〇地域生活移行支援事業の住宅契約関係費(鍵交換等)と次世代育成支援事業の学習環境整備支援費

課 題 (塾代等) は、需要も多く被保護者の自立を促す上で大変重要なため、ケースワーカーを通じて利用 についての周知や勧奨が引き続き必要である。

〇自立促進支援給付金について、項目や金額等、需要に応じて内容を見直す。

〇入浴券について、返送分等の在庫枚数を精査し、購入枚数を調整する。

問題点・課題の改善策

III) ACE			
	令和2年度に取り組む 具体的な改善内容	令和2年度に実施した 改善内容および評価	令和3年度以降に取り組む 具体的な改善内容
1	次世代育成支援(塾代等)はケース ワーカー等へ周知を行い、継続して 適正な支援を実施する。	ケースワーカー連絡会等で周知を行い、兄弟で塾に通う世帯が増える 等、特に次世代育成支援について効果があった。	就労支援事業と連携し、被保護者 の就職活動の経費の支給実績の増 を見込めるようにしつつ、ニーズ の高い項目について検討する。
2	-	-	塾代支給の対象児童をもつ被保護者に対し、ケースワーカーから早い時期に事業の周知に努める。
3	依然として浴室を備えていない被保 護者もいるため、状況把握をして実 施を行う。		ケースワーカーによる訪問や電話 での対応の際に、入浴券の使用状 況を確認するなど、ニーズ把握に 努めて購入枚数を精査する。
施区	. (実施 22 区	未実施 0 区 不明	0 区)
施状況の実			
況 (要旨)	平成28年度 九月会議 生活保護	世帯の大学等進学時の取扱いについて 家庭と一般家庭の進学率格差について	

N₀1

															NOI
事務	事:	<u>業コード</u>		08-0	02-16						○協働			財務	○ 人事
事務	事	業名		施設	设委託	保護費				课名 <mark>福</mark> ·者名 川	<mark>祉部生活社</mark> 口	<u> </u>	課長名 内線		<u>§•北村</u> 2643
古 7/2 日	⊨ ₩	<i>+ +</i> + + + -	フル市	* 57		01-0	1-01	救護施言		д д ///	_		1 3 426		
		美を構成する 事業コー					1-02	更生施語	文						
							1-03	授産施言	克						
		業の種類				(〇 3年		2年度)		設事業		○ それ以外	外の継続	続事業
開始			昭和			196			根拠		保護法第30				
終期			〇有			(法令等		施設事務費				
実施	基2	华	●法					〇区独	目基準_	計画	<u>メ分</u>	0	計画	● 非計	計画
行	可	対評価	分里		<u>I</u>		建康都市		7 2 1 7	昔 こ ロ フ	ᄮᄼᄼᅑ	<u>+</u>			
		体系		表	02				でいして	春らせる	社会の形成	火			
		自仕し	施第		12		得者の自		はさして	口当上	舌を営むこ	しが田に	## <i>+</i> > ## /B ==	≠ -1 × •	ころでも
											」を呂むこ 丿養護及び				
目的	勺	所させて					`\	し入しの作り	14 07	:шісь :	/良设从U	11日午で:	心女C) で	J X M ii	支口でハ
		// C = \	/1	1/1/1/1	ر ۱۱ ے	•									
		身体上	- 主 ナ-	は結	抽上の		(障害の #	- め 独	立して日	堂生活	を営むこと	が凩難	か者		
対象								で社会復				75 ШХЕ	5 Ц		
等		2,00	10,1	·, C	~~	- / 0 ^	, PIND 11	- 112	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	0 1					
		〇救護旅	設は	全国	で約1	90施設	ある。荒	川区では	は、主に、	病状が	安定してい	いる重度	身体障害	者、精	神障害
											斤している				
									あかつき	(精神經)			
							年4月末耳		4名			_			
											人所させて		184 7		
内容	?										た宿所提				
								♪壮、けて 荘、葛飾:			ŧ、さざな	み夗 ()	旧潮兄祭)		
							年4月末3		42名	江江					
								和3年4月		114	ζ.				
			-//		, , , , , ,		1 1 20 ()-	140 1 .7	7 7 7 7 7 7 7 7		=				
		昭和40年	= 1 Fl	佐司	고사하다	たせる「	マム投管	(船径	市 古 却 :	<u></u>	に温号)				
		昭和42年					△へ移官 享へ移管		宋尔彻/	ソ・一ノレロシ	15)				
		平成2年							生活相	1談一時代	保護所を除	く更生は	施設を事業	き団に 君	阜 詳
		平成11年						年度通年		א נייי אשו	KIIZITI C FIN	\		νш,,	ζ μ υ
		平成14年								判定、一	時保護機能	能を廃止	2入所	判定は	各
经边	图									こ対応す			施設は、		
		_ 5465						的に開始							
		平成16年									から居宅係	未護へ変	更とした	0	
								再編整備							
		平成30年									低額宿泊原	よかこ の	, 击二 +份 \		
										る (無 4 4	14.6月1日7日7	N 10 . D 0.	/ キム1矢 /		
		生活保護	護法に:	基づ	く事務	務事業の	ため必須	頁である	0						
必要	性														
		(<mark>1直営</mark>	!)	(直営の均	場合 ●	常勤職舅	O	会計年度	任用職員	〕)		
実施		特人厚	!バッ	クア	ップセ	2ンター	へ入所記	周整を依認	頼し、入	.所決定後	6、各施設	と個別	に入所手約	もきを行	う。こ
方法	5										している。				
	l														
									指標の推	推移					
指		事務事業	の成り	果とす	する指	標名				3年度	目標値	1	指標に関	する説	明
刊							30年度	元年度	2年度	見込み	(8年度)				
		tn			tal aler		705	070	000						
	(1	更生施設	利用	延べ	件数		705	879	908	950					
	<u></u>														
標	2)													
	3														
		事務	事業の	り分業	頁					/\ \\ \\ \	v -	n	1 6/5		
	:	3年度			<u>~</u> 4年度	:			2	分類につ	いての説明	月・意見	一等		
		- 1 /2			. 112		生活(呆護法に	基づく協	設保護(の経費であ	り繰	続する。		
		And A-			Anto 4 I				\ //L	フェクトトログ (- 11256 (0)	· / 、 中巴			
		継続			継続										

No2 (単位:千円) 毎 **1** 25年

	・決算額等の推移		27年月		28年度	29年度		年度	元年度	2年度	3年度
予算			38, 75		37, 108	38, 33		, 487	105, 797	111, 513	123, 569
	額(3年度は見込み)	7. \	35, 91		33, 367	29, 79		, 117	102, 715	91, 850	123, 569
実	事項名(3年度は見込	<u>い</u> か)	27年月		28年度	29年度		年度	元年度	2年度	3年度
	生活費(延べ人員)			396	307		56	393	456		450
	生活費(千円)		23, 9	745	19, 060 693	16, 1	46 Z 08	3, 628 722	27, 871	,	26, 000 790
推 移	事務費(延べ人員)		68. 9		67, 614	62, 7			816		67, 000
	事務費(千円) ・決算の内訳		00, 8	909	07, 014	02, 7	04 /	1, 782	74, 843	66, 462	07,000
<u> ア昇</u>	<u>・沃昇の内訳</u> 令和元年度(決算)			수 ᡏ	口2年度(<u></u>			仝和?੬	** 建 (予算)	
節		金額(千円)	節	TJ 17	主な事		金額 (千円)	節		<u>+ 反(ア弁/</u> Eな事項	金額(千円)
	費を施設生活費、事務費			施設	<u>工资事。</u> 生活費、					- 76 年 75 舌費、事務3	
1/191	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	102, 710	八岁兵	//E (IX	工心具、	子沙兵	01,000	17415	7 NEDX 11/	口兵、 于705	120,000
	<u>'</u>			-						(単作	立:千円)
	勘定科目	元年度	2生	F度	差額		勘定科目	1	元年度	2年度	差額
	給与関係費	26, 5		0, 450			方税等		0		0
	物件費		0	0		0 国	庫支出金	<u> </u>	67, 595	•	8, 227
行	維持補修費		0	0)	0 行 契	支出金		16, 466	22, 146	5, 680
政	行 扶助費	102, 7	15 9	1, 850	10, 8	65 四分	担金及び	負担金	0	0	0
	政補助費等		0	0)	0 % 使	用料及び	手数料	0	0	0
スト	費減価償却費		0	0)	0 个 そ	の他		0	0	0
計	用不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	0		0 行	政収入合	計(a)	84, 061	97, 968	13, 907
算	賞与・退職給与引当金繰入額	4, 1	22	3, 154	1 ▲ 9	68 行政収:	支差額(a)-	(b) = (c)	4 9, 283	1 7, 486	31, 797
書	その他行政費用		0	0	4		収支差額		0	0	0
	行政費用合計(b)	133, 3	44 11	5, 454	1 1 1 7 , 8			(d) = (e)	▲ 49, 283	▲ 17, 486	31, 797
	特別費用(g)		0	0		0 特別」			0	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0						▲ 17, 486	31, 797
備	行政費用では、扶助費が									産施設への多	E託保護費
考	となっている。行政収入	では、国	庫負担金	きとし	て75,822	, 000円 <i>0</i>)収入が	あった	0		
		== 1+ 184+		-1.	7 - 1 4,	5 //b.t.	- 1 7 Er	T 41 45	+t==0.	-	- 7
問	○単身女性の更生施設入 ○更生施設の入所まで数										
題	○更生施設が入所まで数										
点	ケースワーカーにとって								CUCHX	7 C 87 S C C	- N. O.
•		16, 21		1 II C			7 × C 07	0 0			
- ■											
課題											
題											
題	点・課題の改善策										
題	点・課題の改善策	組む			1和2年度(こ実施し	<i>t-</i>		令和3年月	き以降に取り	り組む
題					·和2年度1 対善内容お					度以降に取り 的な改善内	
題	点・課題の改善策 令和2年度に取り; 具体的な改善内	容	如 l ; f l c**	2	女善内容 お	よび評	価	斩 夂 1	具体	的な改善内	容
題	点・課題の改善策 令和2年度に取り 具体的な改善内 女性の受け入れ可能な宿	容 泊所等の		で 区で3	女善内容 お 女性用日常	sよび評 常生活支	価		具体 重依存症等	的な改善内 の様々な課	容 題を抱え
題	点・課題の改善策 令和2年度に取り 具体的な改善内 女性の受け入れ可能な宿 握のため、他区との情報	容 泊所等の 交換等を	活 設を	で 区で3	女善内容 お 女性用日常	sよび評 常生活支	価	<i>t</i> =3	具体 種依存症等 女性が増加	的な改善内 の様々な課 Iしている。	容 題を抱え 日常生活
問題	点・課題の改善策 令和2年度に取り 具体的な改善内 女性の受け入れ可能な宿	容 泊所等の 交換等を	活 設を	で 区で3	女善内容 お 女性用日常	sよび評 常生活支	価	た: 支	具体 種依存症等 女性が増加 援住居施設	的な改善内 の様々な課 している。 で更生施設	容 題を抱え 日常生活
問題	点・課題の改善策 令和2年度に取り 具体的な改善内 女性の受け入れ可能な宿 握のため、他区との情報 用し、支援に適した宿泊 努める。	容 泊所等の 交換等を 所の確保	活 設を	図です 把握し	女善内容 お 女性用日常 し、活用し	3よび評 常生活支 _ン た。	援住居加	たす 支持 たま	具体 種依存症等 女性が増加 援住居施設 支援体制を	的な改善内 の様々な課 している。 や更生施設 整える。	容 !題を抱え 日常生活 さを活用し
問題	点・課題の改善策 令和2年度に取り。 具体的な改善内 女性の受け入れ可能な宿 握のため、他区との情報 用し、支援に適した宿泊 努める。	容 泊所等の 交換等を 所の確保 が異なる	活 記 こ 被保	区でを把握し	女善内容 を 女性用日常 し、活用し との面談等	3よび評 常生活支 った。 年 を通じ	価援住居が で支援に	た。 支持 た。 こ 更な	具体 種依存症等 女性が増加 援住居施設 支援体制を 生施設を始	的な改善内 の様々な課 している。 や更生施設 整える。 かとした社	容 題を抱え 日常生活 を活用し 会資源と
問題	点・課題の改善策 令和2年度に取り 具体的な改善内 女性の受け入れ可能な宿 握のため、他区との情報 用し、支援に適した宿泊 努める。 各施設ごとに強みや特色 とから、利用者に合った	容 泊所等の 交換等を 所の確保 が異なる	活 設を 被保 通	区で変担を表してある。	女善内容は 女性用日常 し、活用し で で で で 変 で で 変 で で で き の で き で き で う で う で う で う で う で う で う で う	3よび評 常生活支 た。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	価援住居が で支援に でもずし	たま 支 た こ の	具体 種依存症等 女性が増設 援住居体 設 支援 を き を き を き を き を き を き を き き き き き き き	的な改善内 の様々なる。 とや更名。 整えしし、 かとし、被保し、被	容 題を抱え 日常活用し をを 会 資源 会 で 養 で 後 を き で き き き き き き き き き き き き き き き き き
問題	点・課題の改善策 令和2年度に取り。 具体的な改善内 女性の受け入れ可能な宿 握のため、他区との情報 用し、支援に適した宿泊 努める。	容 泊所等の 交換等を 所の確保 が異なる	活 設を 被保 通	区で変担を表してある。	女善内容 を 女性用日常 し、活用し との面談等	3よび評 常生活支 た。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	価援住居が で支援に でもずし	た支た。更の自	具体 種体 体性 性性 性性 性性 を が に が に に に に に に に に に に に に に	的な改善内 の様々な課 している。 や更生施設 整える。 かとした社	容 題を抱え 日常活用し をを 会 資源 会 で 養 で 養 で 養 で 養 で き き き き き き き き き き き
問題	点・課題の改善策 令和2年度に取り。 具体的な改善内 女性の受け入れ可能な情 握のため、他区との情 にある。 各施設ごとに強みや特色 とから、利用者にる。	容 泊交所 等等保 が施 なを活	活にこれの一定では、これのでは、これ	区把を選を表しています。	女善内容は 女性用用に とのの選携し とのを選携した。	S よび評 常生活 等 た 通 通 援 を 、 支 じ に を 、 支 を 、 を 、 を 、 を 、 を 、 を 、 を 、 を 、	価 援住居が て支援に したった。	た技力を対する。	具体 具体 関係	的な改善内 の様々い生を としまる としまる として として として として として を は、 を は、 を は、 を は、 と し 、 と も は、 と も は、 と も は、 も は も は も は も は も は も は も は も は も	容 題 お
問題	点・課題の改善策 令和2年度に取り。 具体的な改善内 女性の受け入れ可能な情報にある。 を施設ごとに強みや特色とから、利用者にる。	容の泊交所ず等等が施なを引き	活にこれの選集をは、一、日本の表に、これの。これの、これの、これの、これの、これの、これの、これの、これの、これの、これの、	区把護た機大禍	女 女 女 女 女 女 女 女 大 の の を 連 り に に に に に に に に に に に に に	ははででで <t< th=""><th>価 接住居が 支援い でし行 ようなた。</th><th>た支た。更の自る。コリ</th><th>具体 等が 選支 生つこう ロナ で は で で で で で で で で で で で で で で で で で</th><th>的なな善内の様では、整めない。 の様では、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ</th><th>容 題 日本 を</th></t<>	価 接住居が 支援い でし行 ようなた。	た支た。更の自る。コリ	具体 等が 選支 生つこう ロナ で は で で で で で で で で で で で で で で で で で	的なな善内の様では、整めない。 の様では、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	容 題 日本 を
1 ②	点・課題の改善策 令和2年度に取り 具体的な改善内 其体的な改善内 女性の受け入れ区との能情和とのため、他区のため、他のでのではでいる。 各施設では、自立をに強みたっる。 各施から自立をに強みたっる。 前年度の施設以外を選定と 前年度会を開催することにまた。	容の前交所本が施よ引更りしてき	活に こ用 続施 引模を 保し療 口で	区把 護た機 ナの施	女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 は い で を 連 よ 見 り 学 は し に は し に は し に は し に は し に に し に し に に し に に に に に に に に に に に に に	は対を大所が活よ上所が対よ上にがか上よいとよよいとよよいとよよいとよよいとよよいとよよいとよよいとよよいよよよいとよよいよよよいよよよいよよよいよよよいよよよよいよよよよいよよよよいよよよよよいよよよよよよいよよよよよよよいよよ<	価 接 「 で し 行 「 まった」 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 	た支た更の自るコ限	具体 等が居体 きかい まかい まかい まかい まい	的 の は な 様 で 更え と 保な 注 開催 は に に に に に に に に に に に に に	容 題日を 会保制 つ更 を 会保制 つ 更生を に を を に か の また か また か で また か また か また か また か また か また
問題	点・課題の改善策 令和2年度に取り。 具体的な改善内 具体的な改善内 女性の受け入れ区ののででである。 女性のが、ででである。 を施設したででは、ないのではないのでは、ないのではないのでは、ないのではないのではないのではないのではないのではないのではないのではないのでは	容の前交所本が施よ引更りしてき	活に こ用 続施る コ模更を 保し療 口で生	区把 護た機 ナの施	女 女 女 女 女 女 女 女 大 の の を 連 り に に に に に に に に に に に に に	は対大大大 <t< th=""><th>価 接 「 で し 行 「 まった」 まった。 まった。 </th><th>た支た更の自るコ限や</th><th>種女援支 生つこ。 ロリロ 体性住援 施な応 ・ ナ施住 おが居体 設がじ ・ の設等 が見の が見の が見の が見の がられ ・</th><th>的のしや整め確軟をを表して、な様で更えと保な注開資はもい生るしし支視催源はしにししには、とを表して、は、とを表</th><th>容 題日を 会保制 つ更 を 会保制 つ 更生を に を を に か の また か また か で また か また か また か また か また か また</th></t<>	価 接 「 で し 行 「 まった」 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 	た支た更の自るコ限や	種女援支 生つこ。 ロリロ 体性住援 施な応 ・ ナ施住 おが居体 設がじ ・ の設等 が見の が見の が見の が見の がられ ・	的のしや整め確軟をを表して、な様で更えと保な注開資はもい生るしし支視催源はしにししには、とを表して、は、とを表	容 題日を 会保制 つ更 を 会保制 つ 更生を に を を に か の また か また か で また か また か また か また か また か また
1 ②	点・課題の改善策 令和2年度に取り 具体的な改善内 其体的な改善内 女性の受け入れ区との能情和とのため、他区のため、他のでのではでいる。 各施設では、自立をに強みたっる。 各施から自立をに強みたっる。 前年度の施設以外を選定と 前年度会を開催することにまた。	容の前交所本が施よ引更りしてき	活に こ用 続施 引模を 保し療 口で	区把 護た機 ナの施	女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 は い で を 連 よ 見 り 学 は し に は し に は し に は し に は し に に し に し に に し に に に に に に に に に に に に に	は対大大大 <t< th=""><th>価 接 「 で し 行 「 まった」 まった。 まった。 </th><th>た支た更の自るコ限や</th><th>種女援支 生つこ。 ロリロ 体性住援 施な応 ・ ナ施住 おが居体 設がじ ・ の設等 が見の が見の が見の が見の がられ ・</th><th>的 の は な 様 で 更え と 保な 注 開催 は に に に に に に に に に に に に に</th><th>容 題日を 会保制 つ更生を 会保制 つ更生を にない かんしょう かんしゅう かんしゅん かんしん かんし</th></t<>	価 接 「 で し 行 「 まった」 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 	た支た更の自るコ限や	種女援支 生つこ。 ロリロ 体性住援 施な応 ・ ナ施住 おが居体 設がじ ・ の設等 が見の が見の が見の が見の がられ ・	的 の は な 様 で 更え と 保な 注 開催 は に に に に に に に に に に に に に	容 題日を 会保制 つ更生を 会保制 つ更生を にない かんしょう かんしゅう かんしゅん かんしん かんし
1 (2) (3)	点・課題の改善策 令和2年度に取り 具体的な改善内 具体的な改善的可能的可能的可能情况 会け入他区域 を性の受め、援に をしたを支援 のし、る。 を記した。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ	容の前交所本が施よ引更りしてき	活に こ用 続施る コ模更を 保し療 口で生	区把護た機・ナの施。	女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 は い で を 連 よ 見 り 学 は し に は し に は し に は し に は し に に し に し に に し に に に に に に に に に に に に に	は対大大大 <t< th=""><th>価 接 「 で し 行 「 まった」 まった。 まった。 </th><th>た支た。更の自る。コ限や員</th><th>種女援支 生つこ。 ロリロ 体性住援 施な応 ・ ナ施住 おが居体 設がじ ・ の設等 が見の が見の が見の が見の がられ ・</th><th>的のしや整め確軟をを表して、な様で更えと保な注開資はもい生るしし支視催源はしにししには、とを表して、は、とを表</th><th>容 題日を 会保制 つ更生を 会保制 つ更生を にない かんしょう かんしゅう かんしゅん かんしん かんし</th></t<>	価 接 「 で し 行 「 まった」 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 まった。 	た支た。更の自る。コ限や員	種女援支 生つこ。 ロリロ 体性住援 施な応 ・ ナ施住 おが居体 設がじ ・ の設等 が見の が見の が見の が見の がられ ・	的のしや整め確軟をを表して、な様で更えと保な注開資はもい生るしし支視催源はしにししには、とを表して、は、とを表	容 題日を 会保制 つ更生を 会保制 つ更生を にない かんしょう かんしゅう かんしゅん かんしん かんし
1 (2) (3)	点・課題の改善策 令和2年度に取り 具体的な改善内 具体的な改善的可能的可能的可能情况 会け入他区域 を性の受め、援に をしたを支援 のし、る。 を記した。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ	容内一一一の一のたりこり <t< th=""><th>活に</th><th>区把護た機・ナの施。</th><th>女 女 と と と と と と と と と と と と と と と ら と ら</th><th>は等した向出数よ生たを、支年来で通通援度なのにのか見</th><th>価 接 住 支やっ うたを が開</th><th>た支た。更の自る。コ限や員</th><th>種女援支 生つこ。 ロリロ間 存が居体 設がじ の設等情 の設等情 をりた 状見の報 が見の報</th><th>的 の しい整 の はな様 で 更え と 保な 注 開資を は を は は に し し し 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、</th><th>容 題日を 会保制 つ更生を 会保制 つ更生を にない かんしょう かんしゅう かんしゅん かんしん かんし</th></t<>	活に	区把護た機・ナの施。	女 女 と と と と と と と と と と と と と と と ら と ら	は等した向出数よ生たを、支年来で通通援度なのにのか見	価 接 住 支やっ うたを が開	た支た。更の自る。コ限や員	種女援支 生つこ。 ロリロ間 存が居体 設がじ の設等情 の設等情 をりた 状見の報 が見の報	的 の しい整 の はな様 で 更え と 保な 注 開資を は を は は に し し し 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	容 題日を 会保制 つ更生を 会保制 つ更生を にない かんしょう かんしゅう かんしゅん かんしん かんし
1 (2) (3)	点・課題の改善策 令和2年度に取り 具体的な改善内 具体的な改善的可能的可能的可能情况 会け入他区域 を性の受め、援に をしたを支援 のし、る。 を記した。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ	容内一一一の一のたりこり <t< th=""><th>活に</th><th>区把護た機・ナの施。</th><th>女 女 と と と と と と と と と と と と と と と ら と ら</th><th>は等した向出数よ生たを、支年来で通通援度なのにのか見</th><th>価 接 住 支やっ うたを が開</th><th>た支た。更の自る。コ限や員</th><th>種女援支 生つこ。 ロリロ間 存が居体 設がじ の設等情 の設等情 をりた 状見の報 が見の報</th><th>的 の しい整 の はな様 で 更え と 保な 注 開資を は を は は に し し し 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、</th><th>容 題日を 会保制 つ更生を 会保制 つ更生を にない かんしょう かんしゅう かんしゅん かんしん かんし</th></t<>	活に	区把護た機・ナの施。	女 女 と と と と と と と と と と と と と と と ら と ら	は等した向出数よ生たを、支年来で通通援度なのにのか見	価 接 住 支やっ うたを が開	た支た。更の自る。コ限や員	種女援支 生つこ。 ロリロ間 存が居体 設がじ の設等情 の設等情 をりた 状見の報 が見の報	的 の しい整 の はな様 で 更え と 保な 注 開資を は を は は に し し し 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	容 題日を 会保制 つ更生を 会保制 つ更生を にない かんしょう かんしゅう かんしゅん かんしん かんし
1 ②	点・課題の改善策 令和2年度に取り 具体的な改善内 具体的な改善的可能的可能的可能情况 会け入他区域 を性の受め、援に をしたを支援 のし、る。 を記した。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ。 をこ	容内一一一の一のたりこり <t< th=""><th>活に</th><th>区把護た機・ナの施。</th><th>女 女 と と と と と と と と と と と と と と と ら と ら</th><th>は等した向出数よ生たを、支年来で通通援度なのにのか見</th><th>価 接 住 支やっ うたを が開</th><th>た支た。更の自る。コ限や員</th><th>種女援支 生つこ。 ロリロ間 存が居体 設がじ の設等情 の設等情 をりた 状見の報 が見の報</th><th>的 の しい整 の はな様 で 更え と 保な 注 開資を は を は は に し し し 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、</th><th>容 題日を 会保制 つ更生を 会保制 つ更生を にない かんしょう かんしゅう かんしゅん かんしん かんし</th></t<>	活に	区把護た機・ナの施。	女 女 と と と と と と と と と と と と と と と ら と ら	は等した向出数よ生たを、支年来で通通援度なのにのか見	価 接 住 支やっ うたを が開	た支た。更の自る。コ限や員	種女援支 生つこ。 ロリロ間 存が居体 設がじ の設等情 の設等情 をりた 状見の報 が見の報	的 の しい整 の はな様 で 更え と 保な 注 開資を は を は は に し し し 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	容 題日を 会保制 つ更生を 会保制 つ更生を にない かんしょう かんしゅう かんしゅん かんしん かんし
題問①②③他区の実	点・課題の改善策令和2年度に取りに具体的な情にの受け、他の受け、他のではないでは、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切	容内一一一の一のたりこり <t< th=""><th>活に</th><th>区把護た機・ナの施。</th><th>女 女 と と と と と と と と と と と と と と と ら と ら</th><th>は等した向出数よ生たを、支年来で通通援度なのにのか見</th><th>価 接 住 支やっ うたを が開</th><th>た支た。更の自る。コ限や員</th><th>種女援支 生つこ。 ロリロ間 存が居体 設がじ の設等情 の設等情 をりた 状見の報 が見の報</th><th>的 の しい整 の はな様 で 更え と 保な 注 開資を は を は は に し し し 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、</th><th>容 題日を 会保制 つ更生を 会保制 つ更生を にない かんしょう かんしゅう かんしゅん かんしん かんし</th></t<>	活に	区把護た機・ナの施。	女 女 と と と と と と と と と と と と と と と ら と ら	は等した向出数よ生たを、支年来で通通援度なのにのか見	価 接 住 支やっ うたを が開	た支た。更の自る。コ限や員	種女援支 生つこ。 ロリロ間 存が居体 設がじ の設等情 の設等情 をりた 状見の報 が見の報	的 の しい整 の はな様 で 更え と 保な 注 開資を は を は は に し し し 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	容 題日を 会保制 つ更生を 会保制 つ更生を にない かんしょう かんしゅう かんしゅん かんしん かんし
題問①②施状況況00他区の実議	点・課題の改善策 令和2年度に取りの 具体的なでは、取事では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	容内一一一の一のたりこり <t< th=""><th>活に</th><th>区把護た機・ナの施。</th><th>女 女 と と と と と と と と と と と と と と と ら と ら</th><th>は等した向出数よ生たを、支年来で通通援度なのにのか見</th><th>価 接 住 支やっ うたを が開</th><th>た支た。更の自る。コ限や員</th><th>種女援支 生つこ。 ロリロ間 存が居体 設がじ の設等情 の設等情 をりた 状見の報 が見の報</th><th>的 の しい整 の はな様 で 更え と 保な 注 開資を は を は は に し し し 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、</th><th>容 題日を 会保制 つ更生を 会保制 つ更生を にない かんしょう かんしゅう かんしゅん かんしん かんし</th></t<>	活に	区把護た機・ナの施。	女 女 と と と と と と と と と と と と と と と ら と ら	は等した向出数よ生たを、支年来で通通援度なのにのか見	価 接 住 支やっ うたを が開	た支た。更の自る。コ限や員	種女援支 生つこ。 ロリロ間 存が居体 設がじ の設等情 の設等情 をりた 状見の報 が見の報	的 の しい整 の はな様 で 更え と 保な 注 開資を は を は は に し し し 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	容 題日を 会保制 つ更生を 会保制 つ更生を にない かんしょう かんしゅう かんしゅん かんしん かんし
題問①②③他区の実議会	点・課題の改善策令和2年度に取りに関係を対し、有限のでは、現代のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	容内一一一の一のたりこり <t< th=""><th>活に</th><th>区把護た機・ナの施。</th><th>女 女 と と と と と と と と と と と と と と と ら と ら</th><th>は等した向出数よ生たを、支年来で通通援度なのにのか見</th><th>価 接 住 支やっ うたを が開</th><th>た支た。更の自る。コ限や員</th><th>種女援支 生つこ。 ロリロ間 存が居体 設がじ の設等情 の設等情 をりた 状見の報 が見の報</th><th>的 の しい整 の はな様 で 更え と 保な 注 開資を は を は は に し し し 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、</th><th>容 題日を 会保制 つ更生を 会保制 つ更生を にない かんしょう かんしゅう かんしゅん かんしん かんし</th></t<>	活に	区把護た機・ナの施。	女 女 と と と と と と と と と と と と と と と ら と ら	は等した向出数よ生たを、支年来で通通援度なのにのか見	価 接 住 支やっ うたを が開	た支た。更の自る。コ限や員	種女援支 生つこ。 ロリロ間 存が居体 設がじ の設等情 の設等情 をりた 状見の報 が見の報	的 の しい整 の はな様 で 更え と 保な 注 開資を は を は は に し し し 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	容 題日を 会保制 つ更生を 会保制 つ更生を にない かんしょう かんしゅう かんしゅん かんしん かんし
題 問 ① ② ③ 他区の実 議会	点・課題の改善策令和2年度に取りに関係を対し、有限のでは、現代のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	容内一一一の一のたりこり <t< th=""><th>活に</th><th>区把護た機・ナの施。</th><th>女 女 と と と と と と と と と と と と と と と ら と ら</th><th>は等した向出数よ生たを、支年来で通通援度なのにのか見</th><th>価 接 住 支やっ うたを が開</th><th>た支た。更の自る。コ限や員</th><th>種女援支 生つこ。 ロリロ間 存が居体 設がじ の設等情 の設等情 をりた 状見の報 が見の報</th><th>的のしや整め確軟をを会有な様で更えと保な注開資をなる施。た、援ししにる内課。設社被体</th><th>容 題日を 会保制 つ更生を 会保制 つ更生を にない かんしょう かんしゅう かんしゅう ひんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう ないしゅう ないまた はんしゅう はんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう はんしゅう かんしゅう ないまた はんしゅう ないまた はんしゅう かんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう ないまた はんしゅう はんしゅん はんしん はんし</th></t<>	活に	区把護た機・ナの施。	女 女 と と と と と と と と と と と と と と と ら と ら	は等した向出数よ生たを、支年来で通通援度なのにのか見	価 接 住 支やっ うたを が開	た支た。更の自る。コ限や員	種女援支 生つこ。 ロリロ間 存が居体 設がじ の設等情 の設等情 をりた 状見の報 が見の報	的のしや整め確軟をを会有な様で更えと保な注開資をなる施。た、援ししにる内課。設社被体	容 題日を 会保制 つ更生を 会保制 つ更生を にない かんしょう かんしゅう かんしゅう ひんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう ないしゅう ないまた はんしゅう はんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう はんしゅう かんしゅう ないまた はんしゅう ないまた はんしゅう かんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう ないまた はんしゅう はんしゅん はんしん はんし
題問①②施状況況の実議	点・課題の改善策令和2年度に取り。具体的可能な情報の受け、人間では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	容内一一一の一のたりこり <t< th=""><th>活に</th><th>区把護た機・ナの施。</th><th>女 女 と と と と と と と と と と と と と と と ら と ら</th><th>は等した向出数よ生たを、支年来で通通援度なのにのか見</th><th>価 接 住 支やっ うたを が開</th><th>た支た。更の自る。コ限や員</th><th>種女援支 生つこ。 ロリロ間 存が居体 設がじ の設等情 の設等情 をりた 状見の報 が見の報</th><th>的のしや整め確軟をを会有な様で更えと保な注開資をなる施。た、援ししにる内課。設社被体</th><th>容 題日を 会保制 つ更生を 会保制 つ更生を にない かんしょう かんしゅう かんしゅう ひんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう ないしゅう ないまた はんしゅう はんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう はんしゅう かんしゅう ないまた はんしゅう ないまた はんしゅう かんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう ないまた はんしゅう はんしゅん はんしん はんし</th></t<>	活に	区把護た機・ナの施。	女 女 と と と と と と と と と と と と と と と ら と ら	は等した向出数よ生たを、支年来で通通援度なのにのか見	価 接 住 支やっ うたを が開	た支た。更の自る。コ限や員	種女援支 生つこ。 ロリロ間 存が居体 設がじ の設等情 の設等情 をりた 状見の報 が見の報	的のしや整め確軟をを会有な様で更えと保な注開資をなる施。た、援ししにる内課。設社被体	容 題日を 会保制 つ更生を 会保制 つ更生を にない かんしょう かんしゅう かんしゅう ひんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう ないしゅう ないまた はんしゅう はんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう はんしゅう かんしゅう ないまた はんしゅう ないまた はんしゅう かんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう ないまた はんしゅう はんしゅん はんしん はんし

No₁

事務事	丰美	ロード	(08-02-1	8				咯プラン		● 業		財務	〇人事
事務事	丰美		ı	中国残留	習邦人支持	爰事務費		部記担当		<mark>祉部生活福</mark> 田、藤田	祉課	課長名 内線		伊藤 2628
主	工業	を構成する	る小車業	€夕	01-1	4-01	中国残留	留邦人支				1		
		事業コー												
事務事	丰当	業の種類	〇 新刦	事業	(〇 3年	E度 O	2年度)	○建	設事業		それ以外	水の緋	続事業
開始名			平成	20 (200			根拠		·政争术 残留邦人等		-		
終期記			〇有(•	()	年度	法令等		援に関する				
実施基	甚近		● 法令	含基準内	○都	基準内	〇区独	自基準	計画	区分	O 計	画	●非	計画
行	잰	:評価	分野			建康都市				11.0 1				
		体系	政策					で心して	事らせる	社会の形成	ζ			
		中国時	施策			等者の自 活化業:		ノ車扱に	西オスダ	経費を支出す	ナスー レ	でがす	z 6/1 / >	車扱劫行
		に資する				/白体设/	ムに至り	くず伤に	女りるか	住員で又山	9 0 - 2	C 、 X)]-1	= BJ (A.	尹 仍刊1
目的]	,,,,,	,		, 00									
対象	耂	被支援給	付者等	F										
等	_													
			÷ 以 ± 17 ↓	生の田	海 <i>t</i> >温度	の促進さ	ナバーシ	<u> </u>	七中国石	浅留邦人等。	ひが壮宁	油油半点	/ 白 六	の土垣に
					消な帰国 事務の執			住帰国 し	た中国が	戈笛	又い行足	161両伯の) H M	の又抜に
					設置費((1						
					員2名分)									
										書購入費)				
内容	ř				炎員2名分 付者への					大利 (本)				
		■ 表 計	料(医	文版 長療費支	払事務、	かします。 かぎ書き	5払事務.	ザベの音 レセプ	た点検、	፭⋪₹ਚੈ/ 支援給付シ	ノステム	関係)		
					校等通学			,		21,20,1213		2-2 10107		
		平成19年	11月				円滑な帰	国の推進	及び永信	主帰国後の日	自立の支	援に関す	る法	律」
		ᄑᆣᅁᄼ	- 1 - 1		一部を改正		/4·12 +	. F. 珠 57 ±	:7 l /// 	拉公公古士	. 	+ 7		
		平成20年 平成26年								:援給付事業 主帰国後のE			- る法:	律」
		1 /2020-	-10/]1							等の円滑な				
経過	ł			し†	:中国残智	習邦人等	及び特定	配偶者の	の自立の	支援に関す	る法律	となる		
		中国残留	邦人支	援事業	を実施す	るために	こ必要な	経費であ	る。					
必要性	生					0.2			•					
		(2一部	委託)	(直営の均	易合 〇	常勤職員	O	会計年度任	E用職員)		
実施		(委託業	務) •	医療費	支払事務	、医療技	夫助デー [・]	タ作成委	託 • 1	介護扶助費	支払事務	・レセ	プト点	検
方法		・システ	ム保守	7										
								#\## O #	- T <i>b</i>					
		事務事業	のは田	レナス・	比抽夕			指標の推	移			指標に関	lat Z≡	H 00
指		争伤争未	の水木	: ⊂ 9 ক:	旧信石	30年度	元年度	2年度	3年度	目標値		1日1示1~1天	19 ବା	エリコ
		1												
	1	日本語教:	室等利用	月延べ件	数	316 263 0 120 250 令和2年度は新型コロナの流行に り不参加						の流行によ		
	_												704	の流行によ
標	2	通院同行	延べ件数	文		188	107	70	120	100	り件数が		コロア	ひが111-4
	<u> </u>													
	3													
		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	事業の						分類につ	いての説明	- 音目	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
	3	年度		4年	度									
										国の促進並				
	4	継続		継糸	売			者の自立	の支援	に関する法律	律」に基	とつく事剤	务執行	経費であ
				-17 <u></u> -4;		り、継組	近9 句。							

												(単位	No2 :千円)
予算	• }	央算額等の推移		27年	度	28年度	29年)	ま し	30年	F度 T	元年度	2年度	3年度
予算		151 100 3 14 32 15		6, 3		12, 310	6, 3			037	6, 190	6, 674	6, 470
決算		(3年度は見込み)		5, 9		6, 652	5, 8			640	5, 845	6, 577	6, 470
実		事項名(3年度は見込	み)	27年	度	28年度	29年月		30年	F度	元年度	2年度	3年度
	報		•		181	4, 181		207		. 207	4, 208	4, 068	4, 122
の		別旅費			36	26		37		28	25	135	158
推	役	務費			33	33		33		0	36	37	37
移	委	託料			715	1, 468		714	2	2, 541	705	706	57
予算	• %	央算の内訳											
		令和元年度(決算)			令	和2年度(決算)				令和3年	F度(予算)	
節		主な事項	金額(千円)	節		主な事	項	金額(節	Ė	Eな事項	金額 (千円)
極瞬		支援相談員報酬	4, 208	報酬	支持	爰相談員報	·酬	4, 0)68	報酬	支援相詞	炎員報酬	4, 122
共済	費	社会保険料	629	共済費		会保険料				共済費			759
旅費		支援相談員旅費	25	旅費		爰相談員旅	費			旅費		炎員旅費	158
需用	費	消耗品	98	需用費						需用費			110
役務:		郵送料 (各種通知)	36	役務費		送料(各種				役務費		(各種通知)	37
委託		システム保守、レセプト点検等	705	委託料		仏保守、レセプ				委託料			57
扶助	費	日本語学校等通学費他	148	職員手≦	 支	爰相談員職	員手当	7	787	扶助費	日本語学	校等通学費他	
													: 千円)
		勘定科目	元年度		年度	差額	0.1	勘定			元年度	2年度	差額
		給与関係費	5, 2		6, 09			方税			0	0	0
行		物件費	8	361	97			庫支		-	2, 614	2, 756	142
政		維持補修費		0		0	V _{π/-} 19	支出			0	0	0
		扶助費	1	47		0 🔺 1	4/ 10 2	担金			0	0	0
ス		補助費等		0		0		用料		F数料	0	0	0
		減価償却費		0		0	0/1/	の他	ļ	=1 ()	0	0	0
計	H	不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	0.0	0		政収.			2, 614	2, 756	142
算書		賞与・退職給与引当金繰入額		71	20		37 行政小				▲ 3, 760		▲ 767
書		その他行政費用	6, 3	0	7, 28	0	0 金融 09 通常収				<u>0</u> <u>3,760</u>	0 ▲ 4, 527	0 ▲ 767
	壯	行政費用合計(b)	0, 3	0	1, Z	0	09 通常型			a)=(e)	3, 760	4, 527	<u>▲ 767</u>
		別費用(g) 別収支差額(f)-(g)=(h)		0		0	0 3 当期) + (b)	▲ 3, 760	•	<u> </u>
		政費用では、給与関係	患が全体	•	た上	•							国庫委託
備		战員所では、桐子関係) として2,552,553円の収			יב ח	ە. دە. دە.	1111111		14 🖭	I PETHIO	1 W C C C	200, 0001 1	当件女儿
考		2 0 (2, 002, 000, 10)	., (,,, ,,, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	,,,									
問	Ö	給付対象者は幼少期かり	ら中国に	居住し	ている	るため、生	活習慣	の違し	ハに。	より地	域との繋が	がりが薄い。	
題	_	全員高齢者のため日本語	語習得が	困難で	あり、	通院時や	関係機	関との	の連絡	各•調	整の際には	は支援相談員	のサポー
点		が欠かせない。											
-													
課													
題													
問題	点	・課題の改善策											
		令和2年度に取り約 具体的な改善内				令和2年度 改善内容 お						度以降に取り 的な改善内容	
	,+							••	1 + P-	44.1	. ,		
		に基づく、生活実態に見る場合に										高齢化に伴い	
1		支援を引き続き行い、f ム更新等も行う。	πピしン			必要な支持 決裁のシ						支援を適切! ·護保険課や?	
	′	→ 実利 寸 ひ 门 ノ。		した	_	八致リン	~ / ^ ~ ?	_ = -	一一			では の連携を図っ	
				- - - 	- 0					1/1 -	, <u> </u>		• •

			2年度に取 体的な改善			令和2年度に 改善内容お				年度以降に 体的な改割	
	1		続き行い	に則した適正 、併せてシス	りながら	計においても が要な支援 ・決裁のシス	髪を行った	た。ま	に必要とな	る支援を 介護保険	に伴い、新た 適切に導入で 課や介護事業 を図る。
	2										
	3										
方斗之	他区の実	(実施	22	区	未実施	0	区	不明	0	区)	
: A / 四 上田 /	祝 (要旨) 議会質問状										

														NOI	
事務專	丰業	美コード		08-02-1	9				略プラン		●業		財務	〇人	、事
事務署	事業	套名		中国残留		援給付事		担当	者名 福	<mark>祉部生活福</mark> 田、藤田	祉課	課長名		伊藤 2628	
主	工業	を構成すん	る小事	 業夕		14-02		留邦人支				-			
		事業コー			01-	14-03	中国残	留邦人配	偶者支援	<u>金</u>					
主	巨当	美の種類	〇 新	規事業	() 3:	年度 (2年度)	○建	設事業		それ以外	人の総合	編車業	
開始全			平成		200		年度	根拠		政事業 残留邦人等					
終期記				●無	200	()	年度	法令等		スロガスサ 援に関する				OICH	<u></u>
実施基				令基準内	1 O ±	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	〇区独		計画				● ● 非i	计画	
			分里			健康都市		日至午			Оп		9 7 F B		
		評価	政策					を心して!	莫らせる	社会の形成					
事	業	体系	施第			得者の自		<u> </u>	中りにも	TAVIDA	<u> </u>				
	\neg	山東原						必要か保	謹を行し	い、最低限度	きの生活	を保障す	-スレノ	- ±.1- 7	<u>-</u>
目的]	の自立を	助長	すること	き目的と	とする。									
対象等		年以上日 保護基準	本に作	住所を有 じる)に	īし、昭和 満たない	口36年4月 世帯。	1日以後	に初めて	永住帰国	まれた方で、 国した方と・	その配偶	者で、一	-定の基	基準(生	
内容	<i>"</i> 'L	给生 ① 多色 香料 医香料 医香料 医香料 医香料 医香料 医香料 医香料 医香料 医香料	費の支 民籍で を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	援扶援援援支原行費付付付金と	。 準じる3 社 ②住 社 ④が、日	支援給付 主宅支援 个護支援 車祭支援 車祭支援 医療扶助	費を支給 給付費 給付費 給付費 き や介護 サ	する。	:銭給付で	ンて、生活(できない場合 令和3年度)	合は、瑪	見物給付け			
経追	3.00	平成26年 令和2年	E 6月 E 7月 E11月 E 4月1 E10月1	「れ「中にをできます」 11 日 11	国残留邦を割り、 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	人への支え、人生にの大きな人等の支持をは、大きの大きの大きの大きの大きのは、大きの大きのは、大きの大きのでは、大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大	「援なるなし事な「配力」と、「それでは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	す体なの及始の残のらる的支推び 推留自保育な策進地 進邦立護職支策及方 及人支調	者会議」 諸会議を接いていていていていている。 またのでは、一切でのは、一切でのは、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切で	D 支 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	は制と 立策 立促と で報 接施 援び。	おける を は は に 関す に に に に に に に に に に に に に	援及び 法律の になっ 法律の 持国した	そ) った。) —	
必要性				支援事業	を実施す	するため	に必要な	経費であ	る。						
実施 方法	-		国残留:	邦人等の に基づい	円滑な船	帚国の促		常勤職 永住帰国	-	会計年度任 国残留法人等		•	前の自立	立支援に	IJ
指		事務事業	の成身	果とする	指標名	30年度	元年度	指標の推 2年度	3年度 見込み	目標値 (8年度)		指標に関	する説	胡	
	1	配偶者支	援金	延べ件数	(件)	73	72	64	60	60					
標	2														
	3														
			事業σ						分類につ	いての説明	・意見				
	3:	年度		4年	度									- In	
	ä	継続		継糸	続	等及び				国の促進並に関する法?					

												(単	
予算	• }	央算額等の推移		27年月		28年度	2	9年度	30年	<u></u> ≢度	元年度	<u>\</u> 2年度	3年度
予算	_	(7) 100 (7 (7 10 10		80, 5		81, 404		2, 58		245	95, 765	71, 813	65, 966
		(3年度は見込み)		69, 80		80, 402		0, 31		433	58, 796	69, 428	65, 966
実		事項名(3年度は見込	71)	27年月		28年度		9年度			元年度	2年度	3年度
	4	活支援給付費延べ人員	<u> </u>		398	399			18	364	343	328	324
		<u>石文版相的复类的人员</u> 活支援給付費(千円)		25, 0		24, 998		26, 3		3, 529	21, 612	20, 575	
が													
推 移	て	の他支援給付費(千円)		44, 8	801	55, 404		64, 0	05 58	5, 904	37, 184	48, 853	42, 077
	L_	l Mr = -L ED											
<u>予算</u>	· 7/	央算の内訳 		ı	<u>Λ</u> τ	n0 /= rit /	<u> </u>	*	-	1	△ 100 b	r	
h-h-		令和元年度(決算)		tr.hr	一 守不	口2年度(早)		h-h-		F度 (予算)	
節		主な事項	金額(千円)	節		主な事			金額(千円)	節		な事項	金額(千円)
		生活・住宅・介護・医療・葬祭支援給付費				宅・介護・医療・		爰給付費				養・医療・葬祭支援給	
扶助:	貫	配偶者支援金	3, 120	抚助質	配偶	者支援金			2, 823	抚助質	配偶者式	え援金	3, 648
													立:千円)
		勘定科目	元年度		F度	差額			勘定科目		元年度	2年度	差額
		給与関係費	2, 7	53	499	▲ 2, 2	54		方税等		0	0	•
,_		物件費		0	0)	0		庫支出金	Ž	70, 620	60, 027	1 0, 593
行		維持補修費		0	0		0		支出金		2, 559	0	2 , 559
政	行	扶助費	58, 7	96 6	9, 428	10, 6	32		担金及び負	負担金	0	0	0
		補助費等	-, .	0	0		0		用料及び		0	0	0
ス・		減価償却費		0	0		0	^	の他		0	18	18
<u> </u>		不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	0		0		政収入合	≣† (a)	73, 179		▲ 13, 134
計	, , ,	賞与・退職給与引当金繰入額	Δ	28	77		51		支差額(a)-(11, 202		▲ 21, 161
算		その他行政費用		0					収支差額		11, 202	0, 303	0
書		「での他们成員用 行政費用合計(b)	61, 9	•	0, 004				文 左 识 支差額(c)+(11, 202	•	▲ 21, 161
	壮士	別費用(g)	01, 3	0	0, 004				又是額(C) 「 仅入 (f)	(u) = (e)	0	0	21, 101
		別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0				スプ(I) (支差額(e) + (b)	11, 202	•	▲ 21, 161
		<u> </u>	患む トル・										
ル用	1J. +	政員用の約99%を扶助」 ない経費増となった。	えかしる	しいる。 でけ *	双义 70 40	仮日の向	中型	レーしょ	へる医療。	义仮貝 ・ 亡 / か /	リ 設 又 ぴ	えしい 而安しょう おんちょう	クはははして
考		っている。	以以从八	C1&、1	D 技 T	刀切双叉	1友1	ヨルハ	十戊 -	レヾ゙゙゚゚゚゚゚゙゙゙゙゙) / <i>D</i>	, り即台行3	正刀・ルベイズ こ
88		<u>っている。</u> 給付対象者が全員高齢	きとなり	新規で	で介護	サービス	ø۶	旧田る	開始する	る等 イ	卜謹 扶助書	が増加の値	酒向に あ
問	る	。また、通院・入院の[ロン・ラブロック	え、医療	を書も	増加して	しょ	5. 安	定定した。	生活維持	ものため、	介護保険制	引度を孰知
 点		。 た上での支援が必要でる		/C	K JZ O	-6/14 0 0	•	ر ₀ ر		T 10 11 11	,, 0,, 1, 2, 0, 1		MX E MXH
一只			,, o										
課													
題													
問題	点・	・課題の改善策											
		 令和2年度に取り約	日まい			和2年度	- <u>+</u>	佐丁	<i>t-</i>		今和3年6	と	し組まり
		甲和2年度に取り制具体的な改善内				対き内容は						りな改善内	
		7 1117 1 7 7 1 1 1 1	_										_
		に基づく適切な支援給付				こおいて						高齢化に伴	
1		で、対象者が安定したな				必要な支持						援を適切に	
1		よう支援し、併せてシス	ステム更		_	夬裁のシ	ステ	ムを	一部導入			護保険課や	
	等	も行う。		した	0					所等	との一層	の連携を図	る。
2				- 1									
3				- 1									
3				- 1									
Дh		(実施 22	区	未実	旃	0		区	不明	Ħ	0	区)	
施区			_	小大	ne -	J		<u></u>	1.6	•	•	<u> </u>	
状分													
施状況の実													
	<u> </u>	barr			=			_					
況議		成31年 予算特別委員会	会 本制	度で支約	計が受	けられる	外国	国人に	こついて				
(要旨)													
要質													
旨問													
状													

事務署	事美	美コード		08-02-2	1					/ ○協働	● 業		財務	〇人事
事務	事美	美名		健康管理	₹支援事業			担当	者名 加	<mark>祉部生活福</mark> 藤	祉課	課長名 内線		伊藤 2623
事務事	業	を構成する	る小事	業名	01-0	4-05	健康管理	里支援事	業					
		事業コー												
		美の種類			(〇 3年		- ' '~)	〇建	設事業	0	それ以外	外の継	続事業
開始。			平成		2010	6)		根拠	生活	保護法				
終期調				● 無 令基準内	(本 (甘淮山	年度 ● 区独	法令等	計画		●計	- का	〇非	=1.m
			分里			基準内 建康都市		日埜年		△ 万	O āl	凹	∪非	計画
		:評価 :体系	政策					心して新	事らせる	社会の形成	;			
	* 未		施第		1-1711	导者の自								
目的	5	と保健指 て医療費	i導を の軽	実施する 減、医療	ことで、 扶助等の	生活習慣 適正化を	夏の改善。 を目的と ⁻	および適 する。	切な医療	糖尿病に。 療機関の受記	诊・服薬	管理等を	図り	、あわせ
対象等	者	カーと協	協議の.	上、対象	者を抽出		を等におり	いて、専	門的なる	支援が必要る	と思われ	.る者を担	担当ケ [.]	ースワー
内容	7/4	1 影 切 2 計 3 面	療報)選定 画に う を 接等(を行い、 基づき、 行う。 の保健指	(レセプ 保健指導 支援対象	を実施す 者に対し もとに生	トるため(して面接	の計画を 等を行い	立てる。 、保健打	ン、糖尿病 	管理・食	事療法・	運動:	療法
			か析結:	果を参考	にし、糖	尿病等0	·			遅延させる。 シ方に関する		: 1 で州‡	百治	
経過		平成27年 平成28年 平成30年 令和元年	E 4月 E11月 E6月 E4月	お生活 生活 生活 生活 り が 内 の	健康管理 護適正化 康管理支 護法改正	の取組の等事業に ((えて)	D具体的だけ に健康管理 を開始を 管理支援 ではいまれ ででいまれ	な強化策 理支援事 事業の法 険指導を	を取りる 業が創ま 制化) 健康管理 実施	まとめる				
必要怕	生	被保護者	が健り	康状態の	維持・改	善と医療	§扶助の3	適正化を	図るため	かに必要でな	ある。			
実旅	<u> </u>	(<mark>3委託</mark>)					-	会計年度日		•		
方法										建指導が必要 指導を行う。		者を抽出	¦し、	区と受託
		市 改 市 业	on dt E	# L Z ·	比抽力			指標の推	移			+6 +番 / - 88	 =	X 00
指		事務事業	·0.7 pX, 5	₹ ८ 9 ବ:	旧倧石	30年度	元年度	2年度	3年度 見込み	目標値(8年度)	,	指標に関	୨ବେ	尤 <i>叫</i>
	1	保健指導	実施者	数		14	31	23	50	35				
標	2	病院同行	(延べ	回数)		-	-	10	10					
	3													
			事業σ					4	分類につ	いての説明	・意見領	等		
	3	年度		4年	度	- n -	0 - 11 -		,,				- 17/ ***	
	1	推進		推进	崖					り法制化さた ため、引き				した。令

予算	•	決算の内訳
		今 45二左

実績

の推移

予算・決算額等の推移 予算額

決算額(3年度は見込み)

保健指導実施者数

事項名(3年度は見込み)

3 71 7	() · · · J / · ·							
	令和元年度(決算)			令和2年度(決算)			令和3年度(予算)	
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
委託料	健康管理支援業務委託	4, 248	委託料	健康管理支援業務委託	5, 280	委託料	健康管理支援業務委託	6, 600

27年度

27年度

(単位:千円)

	勘定科目	元年度	2年度	差額	勘定科目	元年度	2年度	差額
	給与関係費	1, 529	1, 426	▲ 103	地方税等	0	0	0
,_	物件費	4, 248	5, 280	1, 032	』。国庫支出金	4, 248	5, 399	1, 151
行	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0
政	行扶助費	0	0	0	以分担金及び負担金	E 0	0	0
コス	政補助費等	0	0	0	及 使用料及び手数料	4 0	0	0
	費減価償却費	0	0	0	くその他	0	0	0
計	用不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a	4, 248	5, 399	1, 151
質	賞与・退職給与引当金繰入額	238	220	▲ 18	行政収支差額(a)-(b)=(d	▲ 1, 767	▲ 1, 527	240
算書	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	6, 015	6, 926	911	通常収支差額(c)+(d)=(e	▲ 1, 767	▲ 1, 527	240
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h	▲ 1, 767	▲ 1, 527	240

備 本事業は委託により実施しており、行政費用の約76%を物件費が占めている。その内訳は、全額委託料となっている。行政収入は、国庫負担金が1,439,183円、国庫補助金が3,960,000円の収入があった。

〇国から支援対象者の抽出に健康増進法に基づく健康診査データの活用を促されているため、被保護者の受診 勧奨が必要である。

〇病気に対する意識はあるが、具体的な改善方法を実践するための意欲に欠ける被保護者が多いため、より粘り強い支援が必要である。

課題

点

問題点・課題の改善策

In) KZ	示 予度のみ									
		2年度に取 体的な改善			令和2年度 改善内容。				年度以降に :体的な改	
1			容に加えるこ 支援を行って		保護者へ伝			り強化し、		との連携をよ を実施するこ う。
2	健康診査の登	受診勧奨を	行う。	診査受診	音時の一括 多の受診勧 を同封し	奨の書類		セプトデー	-タを参考	に加えて、レ にして、被保 の受診勧奨を
3										
施状況	(実施	22	区	未実施	0	区	不明	0	区)	
天 議会質問状										

事務事業分析シート(令和3年度) No1 事務事業コード 08-02-22 戦略プラン ○協働 ●業務 ○財務 〇 人事 部課名 福祉部生活福祉課 課長名 伊藤 事務事業名 精神保健福祉事業 担当者名 宅野 2628 内線 精神保健福祉事業 01-04-01 事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード (3年度) 事務事業の種類 〇 新規事業 (○3年度 ○2年度 〇建設事業 ● それ以外の継続事業)年度 開始年度 1965 根拠 昭和 40 生活保護法 年度 終期設定 法令等 ○ 有 ● 無 実施基準 ● 法令基準内 ○ 都基準内 ○ 区独自基準 計画区分 ○計画 ●非計画 分野 生涯健康都市 行政評価 高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成 政策 02 事業体系 低所得者の自立支援 施策 12 精神障害や精神疾患の被保護者に対して、専門的知識を活用した指導や支援を行うことで、社会的な自 立促進を図ることを目的とする。 目的 精神障害又は精神疾患(認知症及び知的障害を含む)の可能性がある要・被保護者で、安定した在宅生 対象者 活を営むことが困難であり、精神障害について専門的な支援が必要と荒川区が判断した者を対象者とす 事務事業 生活保護行政運営事務費より一部組替えにより作成 対象者の社会的な自立の促進を図ることを目的として、以下の業務を行う。 ①居宅生活支援 居宅の受給者で医療機関への未受診、服薬管理ができない等、生活上の自己管理が困難な者につ いて、担当ケースワーカーと連携のもと、専門的な立場から相談、助言を行うこと。 ②社会復帰促進支援 内容 就労、作業所などにおける訓練、ボランティア活動など、社会参加が可能な受給者に対して、専門的 知識を活用して、相談、助言を行うこと。 ③退院促進支援 症状が安定し、地域での受入れ条件が整うことにより受給者が退院可能になる場合、適切な受入れ 条件が整備できるように担当ケースワーカーへ助言、援助を行うこと。 平成21年度 精神保健福祉業務委託 平成30年度 支援員を1名から2名に増員 経過 精神疾患を患う被保護者は日常生活に支障をきたす場合が多いため、専門的知識を活用した指導・支援 必要性を行う必要がある。 (3委託 (直営の場合 〇 常勤職員 ○ 会計年度任用職員) 実施 方法

		声数声業の	出用しまてお押々			指標の推	移		16.1元 18.3.7 元 5.5.00
指	+	事伤争未の)	成果とする指標名	30年度	元年度	2年度	3年度 見込み	目標値 (8年度)	指標に関する説明
	1	医療機関同行	Ī	54	85	68	75	80	
標	2	ケースカンフ	7ァレンス参加数	23	34	18	25	30	
	3	依存症患者対	才応数	8	7	10	5	5	
		事務事業	業の分類			,	/ 米五/一 へ	いての芸品	
	3:	年度	4年度			7	が親につ	いての説明	│ ・ 思兄寺
	U	······································	ሪነቀ ራ士	精神療	失患を患 必要があ	う被保護 るため事	者に対し 業を継続	っては、専 売する。	門的知識を活用した指導・支援

継続

継続

No2 (単位 : 千円) 予算・決算額等の推移 27年度 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 予算額 8, 635 決算額 (3年度は見込み) 8,635 事項名(3年度は見込み) 27年度 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 実 支援対象者数 44 49 36 64 60 績 59 の 推 移 予算・決算の内訳 令和元年度(決算) 令和2年度(決算) 令和3年度(予算) 主な事項 金額 (千円) 節 節 主な事項 金額 (千円) 節 主な事項 金額 (千円) 精神保健福祉業務委託 8, 580 委託料 精神保健福祉業務委託 8, 635 委託料 (単位:千円) 勘定科目 元年度 2年度 差額 勘定科目 元年度 2年度 給与関係費 地方税等 物件費 国庫支出金 行 維持補修費 都支出金 政 政 行扶助費 分担金及び負担金 収 \Box 使用料及び手数料 政補助費等 ス 費減価償却費 その他 ۲ 用不納欠損・貸倒引当金繰入額 行政収入合計(a) 0 0 計 賞与・退職給与引当金繰入額 0 行政収支差額(a)-(b)=(c) 0 0 0 その他行政費用 金融収支差額(d) 行政費用合計(b) 0 0 ○ 通常収支差額(c)+(d)=(e) 0 0 0 特別費用(g) 特別収入(f) 特別収支差額(f)-(g)=(h) 0 0 0 当期収支差額(e)+(h) 0 0 0 考 精神疾患を患っているという自覚の薄い被保護者が増える傾向にあるため、適切な支援が必要である。 問 点 課 題 問題点・課題の改善策 令和2年度に取り組む 令和2年度に実施した 令和3年度以降に取り組む 具体的な改善内容 改善内容および評価 具体的な改善内容 被保護者のニーズや支援の効果を見 依頼時に、依頼票に希望する支援の 精神保健福祉士とケースワーカー 内容を記載することで、ニーズに える化するため、支援内容指標を作 との連携を一層密にし、被保護者 (1) 成する。 沿った支援が出来た。 -人ひとりの病状等状況を一覧に 整理して援助方針に反映させる。 2 3 (実施 21 区 未実施 区 不明 0 区) 施状況の実 未実施区 足立区 況議 〜会 要質 旨問

状

事務事業分析シート(令和3年度) No1 事務事業コード 08-02-23 戦略プラン ○協働 ●業務 ○財務 〇 人事 部課名 福祉部生活福祉課 課長名 伊藤 事務事業名 高齢者居宅支援事業 担当者名 高橋 2658 内線 高齢者居宅支援事業 01-04-02 事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード(3年度) 事務事業の種類 〇 新規事業 (○3年度 ○2年度) 〇 建設事業 ● それ以外の継続事業)年度 開始年度 1965 根拠 昭和 40 生活保護法 年度 終期設定 法令等 ○有●無 実施基準 ● 法令基準内 ○ 都基準内 ○ 区独自基準 計画区分 ○計画 ●非計画 分野 生涯健康都市 行政評価 高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成 政策 事業体系 12 低所得者の自立支援 施策 65歳以上の被保護者のうち、生活状況が安定した世帯等を対象に、自立支援、介護サービス等の確認。 福祉サービス等の利用に係る相談・援助、及び関係機関との連絡調整等、ケースワーカー業務の補助を行 目的 うことを目的とする。 ①~③の1つ以上に当てはまる被保護者 ①生活状況が安定している高齢者(65歳以上) ②介護保険 対象者 法に規定する「要支援」及び「要介護」の認定を受けている者 ③その他福祉事務所長が認めた者 事務事業 生活保護行政運営事務費より一部組替えにより作成 〇委託料(高齢者居宅介護支援事業事務) ・介護サービス等の確認 ・医療券に関する意見書等の発券に係わる事務補助 ・施設入所及びその事務補助 ・訪問実施及びケース記録(補助)の作成 内容 ・システム入力事務(一時扶助・年金改定時の入力含む) 令和3年度 委託料 51,216,000円 平成25年度 高齢者居宅介護支援事業業務委託(公募型プロポーザル方式) 平成30年度 高齢者居宅介護支援事業業務委託(公募型プロポーザル方式) 経過 生活保護事業を適正に実施するための事務経費であり、必須である。 必要性 (2一部委託 (直営の場合 ○ 常勤職員 ○ 会計年度任用職員)) 実施 [委託業務] · 高齢者居宅介護支援事業 方法 **指標の堆段**

	車致車業の	成果とする指標名			担保の指	E作多		指標に関する説明
指	争伤争未切	以未とりる拍標石	30年度	元年度	2年度	3年度 見込み	目標値 (8年度)	11保に関する武功
	1							
標	2							
	3							
	事務事業	業の分類			,	ン粘につ	いての説明	. 辛目学
	3年度	4年度			7	リ規にフ	いての証明	- 忘光寺
			生活的	保護の高	齢者世帯	の支援の	Dため必要7	な事業である。

継続

継続

										(単行	立:千円)
予算	・決算額等の推移		27年度	复	28年度	29年月	复 304	年度	元年度	2年度	3年度
予算										_	51, 216
決算										_	51, 216
実	事項名(3年度は見込	.み)	27年度	复	28年度	29年月	复 304	年度	元年度	2年度	3年度
績											
の											
推											
移											
予算	・決算の内訳		1	<u> </u>	四0左曲 /	24 (本)		1	△ 1 □ 0 <i>t</i>	r 由 / マ 答 \	
節	◆ 令和元年度(決算)	金額(千円)	節		ロ2年度(主な事		金額(千円)	節		F度(予算) :な事項	金額(千円)
LIA	土は争垻	並領 (十円)	委託料	宣齡老	土 (手・ 居宅介護支援事		51, 216	委託料		· 後 争 垻 · 護支援事業業務委	
			女司行	同图1日/	白七月 設又 16月	**************************************	31, 210	女礼什	同即省冶七月	设义 及尹木木仍乡	31, 210
											立:千円)
	勘定科目	元年度	夏 2年	F度	差額		勘定科目		元年度	2年度	差額
	給与関係費			0			方税等				
行	物件費						庫支出金	Ž			
政	維持補修費					ᇄᆁ	支出金	7.17.4			
	行 扶助費					IID D	担金及び				
ス	政補助費等費減価償却費						用料及び	于剱科			
 	東						·の他 ·政収入合	<u>=</u> ↓(a)	0	0	0
計	賞与・退職給与引当金繰入額			0	1		英差額(a)-		0	0	0
算	その他行政費用				'		収支差額		0	U	0
書	行政費用合計(b)		0	0			大久在 5 支差額(c)+		0	0	0
			- 				収入(f)	(=)		- J	
	特別食用(g)					特別	ᄱᄉᄾ				
	特別費用(g) 特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0			<u>収入(I)</u> Q支差額(e	e) + (h)	0	0	0
			0	0)			e) + (h)	0	0	0
——— 備 考			0	0				e) + (h)	0	0	0
考	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高	齢化が進	•			0 当期4	又支差額(€	•	•		· ·
考 問	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高 る。		み、認知	症の	発症や入	退院等一	双支差額(€ で対応が	困難とな	る被保護	養者世帯が均	曽加してい
考	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高いる。 〇高齢者単身世帯の増加	により、	・ み、認知 入退院や	症の	・ 発症や入 入所の際	0 当期 ⁴ 退院等 ⁻ の一時	双支差額(€ で対応が	困難とな	る被保護	養者世帯が均	曽加してい
考 問題点・	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高 る。	により、	・ み、認知 入退院や	症の	・ 発症や入 入所の際	0 当期 ⁴ 退院等 ⁻ の一時	双支差額(€ で対応が	困難とな	る被保護	養者世帯が均	曽加してい
考 問題点・課	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高いる。 〇高齢者単身世帯の増加	により、	・ み、認知 入退院や	症の	・ 発症や入 入所の際	0 当期 ⁴ 退院等 ⁻ の一時	双支差額(€ で対応が	困難とな	る被保護	養者世帯が均	曽加してい
考 問題点・	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高いる。 〇高齢者単身世帯の増加	により、	・ み、認知 入退院や	症の	・ 発症や入 入所の際	0 当期 ⁴ 退院等 ⁻ の一時	双支差額(€ で対応が	困難とな	る被保護	養者世帯が均	曽加してい
考問題点・課題	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高いる。 〇高齢者単身世帯の増加	により、	・ み、認知 入退院や	症の	・ 発症や入 入所の際	0 当期 ⁴ 退院等 ⁻ の一時	双支差額(€ で対応が	困難とな	る被保護	養者世帯が均	曽加してい
考問題点・課題	特別収支差額(f)-(g)=(h)- - 〇年数の経過により、高にる。 (の高齢者単身世帯の増加 でケースワーカーの支援 点・課題の改善策	により、 を要する	・ み、認知 入退院や	ロ症の ・施設 ・増加	発症や入 入所の際 している	0 当期 ⁴ 退院等 ⁻ の一時 。	又支差額(€ で対応が 内・短期	困難とな	にる被保護 銭管理等、	養者世帯が均 あらゆる均	曽加してい
考問題点・課題	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高にる。 〇高齢者単身世帯の増加にてケースワーカーの支援 点・課題の改善策 令和2年度に取り約	により、 を要する 組む	・ み、認知 入退院や	可症の ・施設 ・・増加	発症や入 入所の際 している	0 当期 退院等 の一時 の	双支差額(6 で対応が 内・短期 ,た	困難とな	でる被保証 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	を表出帯が増 あらゆる増 を以降に取り	曽加してい 易面におい り組む
考問題点・課題	特別収支差額(f)-(g)=(h)	により、 を要する	み、認知 入退院や ケースが	可症の が増加 令。	発症や入 入所の際 している 和2年度に 対善内容お	の当期は 退院等での一時的。	文支差額(e で対応が 内・短期 た 価	困難とな	で る被保証	養者世帯が地 あらゆる地 あらゆる地 あらゆる地	曽加してい 場面におい り組む 容
考問題点・課題	特別収支差額(f)-(g)=(h) 〇年数の経過により、高いのでは、のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	により、 を要する 組む 容 の委託支	み、認知入退院やケースが	可症の の で が増加 や で き を り で き で き で り で り で り で り で り り り り り り	発症や入 人の際る れている 和2年度は 対善内容は 見直し、	退院等の一時に	で対応が 知 た 価 囲に -	困難とな	でる被保証 後管理等、 令和3年原 具体に スワーカ	養者世帯が地 あらゆる地 と以降に取り を改善内 と委託支	曽加してい 場面におい 別組む 容 援員の業
考 問題点·課題 問題 (1)	特別収支差額(f)-(g)=(h)	により、 を要する 組む 容 の委託支	み、認知大力を表現である。 「「大力」を表現である。 「大力」を表現できます。 「大力」を表現できまする。 「大力」を表現できま	の が増加 令で を等の	発症や入しのいる かいこう おおり でんしん かいこう おいっこう おいっこう かいっこう かいっこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かい	図当期 退院等の 実が業がでいます。	で対応が 知 た 価 囲に -	困難とな	でる被保証 発管理等、 令和3年月 一人 フロの検証	養者世帯が増 あらゆる増 と以降でを を を を を で で で で で で で で で で で で で で	曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の
考 問題点·課題 問題 (1)	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高いのでは、 る。 〇高齢者単身世帯の増加でケースワーカーの支援 点・課題の改善策 令和2年度に取り利 具体的な支援事業の 高齢者居宅介護支援事業の 員と明確な分業化を行う	により、 を要する 組む 容 の委託支	み、認知大力を表現である。 「「大力」を表現である。 「大力」を表現できます。 「大力」を表現できまする。 「大力」を表現できま	の が増加 令で を等の	発症や入 人の際る れている 和2年度は 対善内容は 見直し、	図当期 退院等の 実が業がでいます。	で対応が 知 た 価 囲に -	困難とな	でる被保証 発管理等、 令和3年月 一人 フロの検証	養者世帯が地 あらゆる地 と以降に取り を改善内 と委託支	曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の
考 問題点·課題 問題 (1)	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高いのでは、 る。 〇高齢者単身世帯の増加でケースワーカーの支援 点・課題の改善策 令和2年度に取り利 具体的な支援事業の 高齢者居宅介護支援事業の 員と明確な分業化を行う	により、 を要する 組む 容 の委託支	み、認知大力を表現である。 「「大力」を表現である。 「大力」を表現できます。 「大力」を表現できまする。 「大力」を表現できま	の が増加 令で を等の	発症や入しのいる かいこう おおり でんしん かいこう おいっこう おいっこう かいっこう かいっこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かい	図当期 退院等の 実が業がでいます。	で対応が 知 た 価 囲に -	困難とないのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	でる被保証 発管理等、 令和3年月 一人 フロの検証	養者世帯が増 あらゆる増 と以降でを を を を を で で で で で で で で で で で で で で	曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の
考 問題点・課題 問 ①	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高いのでは、 る。 〇高齢者単身世帯の増加でケースワーカーの支援 点・課題の改善策 令和2年度に取り利 具体的な支援事業の 高齢者居宅介護支援事業の 員と明確な分業化を行う	により、 を要する 組む 容 の委託支	み、認知大力を表現である。 「「大力」を表現である。 「大力」を表現できます。 「大力」を表現できまする。 「大力」を表現できま	の が増加 令で を等の	発症や入しのいる かいこう おおり でんしん かいこう おいっこう おいっこう かいっこう かいっこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かい	図当期 退院等の 実が業がでいます。	で対応が 知 た 価 囲に -	困難とないのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	でる被保証 発管理等、 令和3年月 一人 フロの検証	養者世帯が増 あらゆる増 と以降でを を を を を で で で で で で で で で で で で で で	曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の
考 問題点·課題 問題 (1)	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高いのでは、 る。 〇高齢者単身世帯の増加でケースワーカーの支援 点・課題の改善策 令和2年度に取り利 具体的な支援事業の 高齢者居宅介護支援事業の 員と明確な分業化を行う	により、 を要する 組む 容 の委託支	み、認知大力を表現である。 「「大力」を表現である。 「大力」を表現できます。 「大力」を表現できまする。 「大力」を表現できま	の が増加 令で を等の	発症や入しのいる かいこう おおり でんしん かいこう おいっこう おいっこう かいっこう かいっこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かい	図当期 退院等の 実が業がでいます。	で対応が 知 た 価 囲に -	困難とないのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	でる被保証 発管理等、 令和3年月 一人 フロの検証	養者世帯が増 あらゆる増 と以降でを を を を を で で で で で で で で で で で で で で	曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の
考 問題点・課題 問 ①	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高いのでは、 る。 〇高齢者単身世帯の増加でケースワーカーの支援 点・課題の改善策 令和2年度に取り利 具体的な支援事業の 高齢者居宅介護支援事業の 員と明確な分業化を行う	により、 を要する 組む 容 の委託支	み、認知大力を表現である。 「「大力」を表現である。 「大力」を表現できます。 「大力」を表現できまする。 「大力」を表現できま	の が増加 令で を等の	発症や入しのいる かいこう おおり でんしん かいこう おいっこう おいっこう かいっこう かいっこう かいっこう かいっこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かい	図当期 退院等の 実が業がでいます。	で対応が 知 た 価 囲に -	困難とないのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	でる被保証 発管理等、 令和3年月 一人 フロの検証	養者世帯が増 あらゆる増 と以降でを を を を を で で で で で で で で で で で で で で	曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の
考 問題点・課題 問 ①	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高いのでは、 る。 〇高齢者単身世帯の増加でケースワーカーの支援 点・課題の改善策 令和2年度に取り利 具体的な支援事業の 高齢者居宅介護支援事業の 員と明確な分業化を行う	により、 を要する 組む 容 の委託支	み、認知大力を表現である。 「「大力」を表現である。 「大力」を表現できます。 「大力」を表現できまする。 「大力」を表現できま	の が増加 令で を等の	発症や入しのいる かいこう おおり でんしん かいこう おいっこう おいっこう かいっこう かいっこう かいっこう かいっこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かい	図当期 退院等の 実が業がでいます。	で対応が 知 た 価 囲に -	困難とないのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	でる被保証 発管理等、 令和3年月 一人 フロの検証	養者世帯が増 あらゆる増 と以降でを を を を を で で で で で で で で で で で で で で	曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の
考 問題点·課題 問 ① ② ②	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高いのでは、 る。 〇高齢者単身世帯の増加でケースワーカーの支援 点・課題の改善策 令和2年度に取り利 具体的な支援事業の 高齢者居宅介護支援事業の 員と明確な分業化を行う	により、 を要する 組む 容 の委託支	み、認知大力を表現である。 「「大力」を表現である。 「大力」を表現できます。 「大力」を表現できまする。 「大力」を表現できま	の が増加 令で を等の	発症や入しのいる かいこう おおり でんしん かいこう おいっこう おいっこう かいっこう かいっこう かいっこう かいっこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かい	図当期 退院等の 実が業がでいます。	で対応が 知 た 価 囲に -	困難とないのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	でる被保証 発管理等、 令和3年月 一人 フロの検証	養者世帯が増 あらゆる増 と以降でを を を を を で で で で で で で で で で で で で で	曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の
考 問題点・課題 問 ①	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高いのでは、 る。 〇高齢者単身世帯の増加でケースワーカーの支援 点・課題の改善策 令和2年度に取り利 具体的な支援事業の 高齢者居宅介護支援事業の 員と明確な分業化を行う	により、 を要する 組む 容 の委託支	み、認知大力を表現である。 「「大力」を表現である。 「大力」を表現できます。 「大力」を表現できまする。 「大力」を表現できま	の が増加 令で を等の	発症や入しのいる かいこう おおり でんしん かいこう おいっこう おいっこう かいっこう かいっこう かいっこう かいっこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かい	図当期 退院等の 実が業がでいます。	で対応が 知 た 価 囲に -	困難とないのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	でる被保証 発管理等、 令和3年月 一人 フロの検証	養者世帯が増 あらゆる増 と以降でを を を を を で で で で で で で で で で で で で で	曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の
考 問題点·課題 問 ① ② ②	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高いのでは、 る。 〇高齢者単身世帯の増加でケースワーカーの支援 点・課題の改善策 令和2年度に取り利 具体的な支援事業の 高齢者居宅介護支援事業の 員と明確な分業化を行う	により、 を要する 組む 容 の委託支	み、認知大力を表現である。 「「大力」を表現である。 「大力」を表現できます。 「大力」を表現できまする。 「大力」を表現できま	の が増加 令で を等の	発症や入しのいる かいこう おおり でんしん かいこう おいっこう おいっこう かいっこう かいっこう かいっこう かいっこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かい	図当期 退院等の 実が業がでいます。	で対応が 知 た 価 囲に -	困難とないのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	でる被保証 発管理等、 令和3年月 一人 フロの検証	養者世帯が増 あらゆる増 と以降でを を を を を で で で で で で で で で で で で で で	曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の
考問題点·課題問 ① ② ③ ③	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高により、高によりである。 一部のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	によする。 はな の ことで 支	み 入ケ 援援 仕時率	症 施増 常助な を等支 を等支	発 入し TA	の 退の。 このを を加を を加を を加を	文差額(を対する) ながれる 短脚になる かん 知	困難とな金 かから かんしょう かんしょく かんしゃ かんしょく かんしゃ かんしょく かんしょく かんしょく かんしょく かんしん かんしん かんしん しんしん かんしん かんしん かんしん かんし	で る	養者 世帯が増 あらゆ と行きのの とう とう とう とり	曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の
考問題点·課題問 ① ② ③ ③	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高により、高によりである。 一部のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	により、 を要する 組む 容 の委託支	み、認知大力を表現である。 「「大力」を表現である。 「大力」を表現できます。 「大力」を表現できまする。 「大力」を表現できま	症 施増 常助な を等支 を等支	発症や入しのいる かいこう おおり でんしん かいこう おいっこう おいっこう かいっこう かいっこう かいっこう かいっこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かい	図当期 退院等の 実が業がでいます。	で対応が 知 た 価 囲に -	困難とな金 かから かんしょう かんしょく かんしゃ かんしょく かんしゃ かんしょく かんしょく かんしょく かんしょく かんしん かんしん かんしん しんしん かんしん かんしん かんしん かんし	でる被保証 発管理等、 令和3年月 一人 フロの検証	養者世帯が増 あらゆる増 と以降でを を を を を で で で で で で で で で で で で で で	曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の
考問題点·課題問 ① ② ③ ③	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高により、高によりである。 一部のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	によする。 はな の ことで 支	み 入ケ 援援 仕時率	症 施増 常助な を等支 を等支	発 入し TA	の 退の。 このを を加を を加を を加を	文差額(を対する) ながれる 短脚になる かん 知	困難とな金 かから かんしょう かんしょく かんしゃ かんしょく かんしゃ かんしょく かんしょく かんしょく かんしょく かんしん かんしん かんしん しんしん かんしん かんしん かんしん かんし	で る	養者 世帯が増 あらゆ と行きのの とう とう とう とり	曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の
考問題点·課題問 ① ② ③ ③	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高により、高によりである。 一部のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	によする。 はな の ことで 支	み 入ケ 援援 仕時率	症 施増 常助な を等支 を等支	発 入し TA	の 退の。 このを を加を を加を を加を	文差額(を対する) ながれる 短脚になる かん 知	困難とな金 かから かんしょう かんしょく かんしゃ かんしょく かんしゃ かんしょく かんしょく かんしょく かんしょく かんしん かんしん かんしん しんしん かんしん かんしん かんしん かんし	で る	養者 世帯が増 あらゆ と行きのの とう とう とう とり	曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の
考問題点・課題問題①②③他区の実	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高語の経過によりの増加である。高齢スプローの支援 ・・課題の改善策 ・・課題の改善策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	に ま 要 も ま で 支 で 区	み 入ケ援援未認 院ス仕時率未実ま	症 施増 書助な 施の 設加 令遣 を等支	発 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 二 九 二 九 二 九 二 九 十 二 九 十 二 九 十 二 九 十 二 九 十 二 九 十 二 九 十 二 九 十 二 九 十 二 九 十 二 九 十 二 九 十 二 九 十 二 九 十 二 九 十 二 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五	の 退の。 こるを加整 医は託ええ 医は許務こ。	文 差額(を 対 ・	困難とな金 かから かんしょう かんしょく かんしゃ かんしょく かんしゃ かんしょく かんしょく かんしょく かんしょく かんしん かんしん かんしん しんしん かんしん しんしん かんしん かんし	で る	養者 世帯が増 あらゆ と行きのの とう とう とう とり	曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の
考 問題点・課題 問題点・課題 1 2 3 他区の実 議	特別収支差額(f)-(g)=(h) - (の年数の経過によりの経過によりの表別を対してなる。高いです。 (の事がでは、 は、 は	にを要する。 はな要なである。 「「はない」では、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、この	み 入ケ援援未認 院ス仕時率未の知 だがま	症 施増 書助な 施 部の 設加 令で を等支	発 入し和差 直入体本 所で年内 し力制21のこれ21これみ	0退の。におきるを加整当期一このをこのを上のできるこのできる <td>文 差額(を 対 ・</td> <td>困難とな金 かから かんしょう かんしょく かんしゃ かんしょく かんしゃ かんしょく かんしょく かんしょく かんしょく かんしん かんしん かんしん しんしん かんしん しんしん かんしん かんし</td> <td>で る</td> <td>養者 世帯が増 あらゆ と行きのの とう とう とう とり とり</td> <td>曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の</td>	文 差額(を 対 ・	困難とな金 かから かんしょう かんしょく かんしゃ かんしょく かんしゃ かんしょく かんしょく かんしょく かんしょく かんしん かんしん かんしん しんしん かんしん しんしん かんしん かんし	で る	養者 世帯が増 あらゆ と行きのの とう とう とう とり	曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の
考 問題点・課題 問題点・課題 ① ② 施状況 況(の の ② 他区の実 議会	特別収支差額(f)-(g)=(h) - 〇年数の経過により、高語の経過によりの増加である。高齢スプローの支援 ・・課題の改善策 ・・課題の改善策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	にを要する。 はな要なである。 「「はない」では、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、この	み 入ケ援援未認 院ス仕時率未の知 だがま	症 施増 書助な 施 部の 設加 令で を等支	発 入し和差 直入体本 所で年内 し力制21のこれ21これみ	0退の。におきるを加整当期一このをこのを上のできるこのできる <td>文 差額(を 対 ・</td> <td>困難とな金 かから かんしょう かんしょく かんしゃ かんしょく かんしゃ かんしょく かんしょく かんしょく かんしょく かんしん かんしん かんしん しんしん かんしん しんしん かんしん かんし</td> <td>で る</td> <td>養者 世帯が増 あらゆ と行きのの とう とう とう とり とり</td> <td>曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の</td>	文 差額(を 対 ・	困難とな金 かから かんしょう かんしょく かんしゃ かんしょく かんしゃ かんしょく かんしょく かんしょく かんしょく かんしん かんしん かんしん しんしん かんしん しんしん かんしん かんし	で る	養者 世帯が増 あらゆ と行きのの とう とう とう とり	曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の
考 問題点・課題 問題点・課題 ① ② 施状況 況(の の ② 他区の実 議会	特別収支差額(f)-(g)=(h) - (の年数の経過によりの経過によりの表別を対してなる。高いです。 (の事がでは、 は、 は	にを要する。 はな要なである。 「「はない」では、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、この	み 入ケ援援未認 院ス仕時率未の知 だがま	症 施増 書助な 施 部の 設加 令で を等支	発 入し和差 直入体本 所で年内 し力制21のこれ21これみ	0退の。におきるを加整当期一このをこのを上のできるこのできる <td>文 差額(を 対 ・</td> <td>困難とな金 かから かんしょう かんしょく かんしゃ かんしょく かんしゃ かんしょく かんしょく かんしょく かんしょく かんしん かんしん かんしん しんしん かんしん しんしん かんしん かんし</td> <td>で る</td> <td>養者 世帯が増 あらゆ と行きのの とう とう とう とり とり</td> <td>曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の</td>	文 差額(を 対 ・	困難とな金 かから かんしょう かんしょく かんしゃ かんしょく かんしゃ かんしょく かんしょく かんしょく かんしょく かんしん かんしん かんしん しんしん かんしん しんしん かんしん かんし	で る	養者 世帯が増 あらゆ と行きのの とう とう とう とり	曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の
考 問題点・課題 問題点・課題 1 2 3 他区の実 議	特別収支差額(f)-(g)=(h) - (の年数の経過によりの経過によりの表別を対してなる。高いです。 (の事がでは、 は、 は	にを要する。 はな要なである。 「「はない」では、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、この	み 入ケ援援未認 院ス仕時率未の知 だがま	症 施増 書助な 施 部の 設加 令で を等支	発 入し和差 直入体本 所で年内 し力制21のこれ21これみ	0退の。におきるを加整当期一このをこのを上のできるこのできる <td>文 差額(を 対 ・</td> <td>困難とな金 かから かんしょう かんしょく かんしゃ かんしょく かんしゃ かんしょく かんしょく かんしょく かんしょく かんしん かんしん かんしん しんしん かんしん しんしん かんしん かんし</td> <td>で る</td> <td>養者 世帯が増 あらゆ と行きのの とう とう とう とり とり</td> <td>曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の</td>	文 差額(を 対 ・	困難とな金 かから かんしょう かんしょく かんしゃ かんしょく かんしゃ かんしょく かんしょく かんしょく かんしょく かんしん かんしん かんしん しんしん かんしん しんしん かんしん かんし	で る	養者 世帯が増 あらゆ と行きのの とう とう とう とり	曽加してい 湯面におい 組む 容 援員の業 に業務の

事務事業分析シート(令和3年度) No1 事務事業コード 08-02-24 〇 財務 戦略プラン 〇協働 ● 業務 〇 人事 部課名 福祉部生活福祉課 課長名 伊藤 事務事業名 金銭管理支援事業 担当者名 宅野 2628 内線 金銭管理支援事業 01-04-03 事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード (3年度) 事務事業の種類 〇 新規事業 (○3年度 ○2年度 〇建設事業 ● それ以外の継続事業)年度 開始年度 1965 根拠 昭和 40 生活保護法 年度 終期設定 法令等 ○ 有 ● 無 実施基準 ● 法令基準内 〇 都基準内 〇区独自基準 計画区分 ○計画 ● 非計画 分野 生涯健康都市 行政評価 高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成 政策 02 事業体系 12 低所得者の自立支援 施策 金銭を計画的に消費していくことが困難な被保護者に対して、きめ細かな支援を行うことにより、安定 した日常生活を営みその意欲や能力向上をさせ、その者の自立の促進を図ることを目的とする。 目的 心身上の理由等により、自ら金銭管理を行うことが困難な者福祉事務所長が必要と認める被保護者とす 対象者 事務事業 生活保護行政運営事務費より一部組替えにより作成 金銭管理支援事業の内容は、次のとおりとする。 ①事業対象者の生活保護費等の収入から、生活に必要な経費の支払を代行し又は当該経費の支払を 計画的に行うことができるように必要な額を事業対象者に分割して渡す。 ②家賃等、公共料金等の日常的な債権の支払代行する。 ③預貯金通帳の預かり等の財産管理する。 内容 ④病院の入院患者・施設の入所者・自立困難な在宅高齢者等の日用品の購入及び送付する。 ⑤金銭管理支援事業に伴う各種相談及び助言する。 通常支援:訪問あり 限定支援:訪問なし 平成31年度 金銭管理支援事業業務委託 令和3年度 単価設定を2段階にする(通常・限定) 経過 認知症等を患う被保護者が増加傾向にあり、金銭管理において支障をきたす事例が後を絶たないため必 必要性要である。 (3委託 (直営の場合 〇 常勤職員 ○ 会計年度任用職員) 実施 方法

		事務事業の			指標の推	移	+15.+m.1− 88.→ 7.=24.00				
	指	事務争未の	30年度	元年度	2年度	3年度 見込み	目標値 (8年度)	指標に関する説明			
		① 支援対象者	数(件)	-	100	120	180	220			
	標	② 支援対象者	割合(%)	-	1. 6	2. 0	2. 9	2	全被保護者に対する支援対象者の割合		
		③高齢者割合	(%)	-	78. 7	76. 4	80.0	80	全支援者に対する65歳以上の支援者 の割合		
Ī		事務事	ハギについてのギョウ・キョケ								
ľ		3年度	分類についての説明・意見等								
ľ				<u>る。</u>							

継続

継続

											(畄人	No2 立:千円)			
予算	· 汐	 央算額等の推移	27年度	₹ :	28年度	29年月	₹ 30	年度	元年度	2年度	3年度				
予算											_	28, 380			
決算	額_	(3年度は見込み)	ᅁᄼᆓᆑ	=	00左曲	00 左 🛱	29年度 30年月		一左曲	0左座	28, 380				
実績	全:	事項名(3年度は見込 銭管理支援申込者数	<u>み) </u>	27年度		28年度 -	29年度	₹ 30°	中 <u></u>	<u>元年度</u> 135	2年度 123	3年度 180			
の	34	以日生又汲中心日奴			_			-	_	100	120	100			
推															
移															
予算	· >			ı	令和2年度(決算) 令和3年度(予算)										
節	i	デ州元年度(沃昇) 主な事項	金額(千円)	節	1000	JZ平度(主な事		金額(千円)	節						
121		그 생 구 첫				<u>工货工</u> 管理支援		26, 966	委託		里支援事業	28, 380			
		#1.25.1.5						#1. === - 1 =				立:千円)			
		勘定科目 給与関係費	元年度	2年	E <u>度</u>	差額		勘定科目 方税等		元年度	2年度	差額			
		物件費			U		王	<u>刀忧守</u> 庫支出金							
行							1 ≠π	支出金							
山口		扶助費						担金及び							
							ス	入 使用料及ひ手剣							
 		減価償却費 不納欠損・貸倒引当金繰入額						<u>の他</u> 政収入合	· <u>=</u> + (a)	0	0	0			
計算	, 13	賞与・退職給与引当金繰入額			0			支差額(a)-(b)=(c)		0	0	0			
書		その他行政費用						収支差額							
	4+	行政費用合計(b)		0	0 0			支差額(c)+	(d) = (e)	0	0	0			
		別費用(g) 別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0			収入(f) ☑支差額(e	a) + (h)	0	0	0			
/ ++	一 (8/-(11/			<u> </u>	0		U	又左识() · (II)	U	U	U			
備考															
		全は管理が難しく 安装	目的にみ	で支撑が	心 更	と思われ	ス油保証	催者でま.	* Y	同音を得じ	っかたい場合	≧があるの			
問題	○金銭管理が難しく、客観的にみて支援が必要と思われる被保護者でも、本人同意を得られない場合があるので、支援の必要性について、自覚を促す必要がある。														
点	0	〇短期入院等の金銭管理支援事業での対応が難しいケースもあるため、支援方法についてはさらに検討を続け													
•		必要がある。 独保護者の享給化が進し	- 7h	全线管理	金銭管理支援の必要な対象者が増加傾向にある。										
課題	\int_{0}^{∞}	放体設有の向射にが定し	- J16.	亚坎吕坦	义[友]	の必安は	対象句は	八日川県	I+J I ← Ø.)る。					
_	Ļ	一													
问起	只 .	・課題の改善策		1											
		令和2年度に取り約	令和2年度に実施した 改善内容および評価						令和3年度以降に取り組む 具体的な改善内容						
		具体的な改善内容	₩ + 1∞				L -	7.11.7.7.							
		ースか増加傾向にある7 模を拡大する。	業 支援対象者を100人から130人に拡大 高齢化に合わせた事業規模 し、事業の充実を図った。 を検討する。なお、今年原												
1	1,56		(/ _ 0		援	援内容を通常と限定の二区分						
				けた。											
2															
	H			-											
3															
施区		(実施 14	区	未実		8	区	不見		0	区)				
14+ -	1-	施:足立 <mark>区、北区、板</mark> 村	喬区、豊	島区、杉	並区	、中野区	、世田名	区、目	黒区、	品川区、「	中央区、千亿	七田区、葛			
況実	即	区、江戸川区、新宿区 実施:港区、文京区、													
況議		大师、尼巴、人水巴、	コベビ 、	玉田匠、	一不	<u>、 // Ш</u>	<u> 、 /3</u> (T	- 一、	wy lex						
流鉄会															
要質															
世狀															

事務區	丰業	美コード		08-02-2	5				戦略プラン ○ 協働 ● 業務 ○ 財務 ○ 人事							
事務事	丰業	差名		生活困窮	月 者自立支			担当	部課名 福祉部生活福祉課 課長名 北村 担当者名 篠原 内線 2624							
		を構成する事業コー			01-1	7–01	生活困窮	得者自立	支援事業							
					/ O 2/2	- 	0 左 垚		7.	=n. 士 ૠ		7 1- 121 4	1 2 614	^+ - ±-₩		
		美の種類			(〇 3年		2年度) += +hn		設事業 因窮者自立		それ以外				
開始年終期記			平成	21 (●無	2015)		根拠 法令等		困窮者自立 事業実施要		流川 凸 :	王活凼	躬石日ユ		
<u>終期</u> 実施基				令基準内	〇 拟	サ 淮 山	平度 ○ 区独		又抜 計画		柳寺	Limit	● 非	= ↓ i 表i		
			分里			<u>奉华内</u> 建康都市		日本午	前凹	区刀	U h		● JFI	計画		
		評価	政策			^{医尿郁円} 皆や障がい者が安心して暮らせる社会の形成										
事	業	体系		施策 12 低所得者の自立支援												
目的]		護に	至る前段	階である	生活困窮	3者の自			を取り巻く。 D支援体制			た様々	々な生活		
対象等	者	生活を維	掛す	ることが	できなく	なる恐れ	1のある	者。		こより、現						
内容	,,,	に○な【・【・・子題ら須活意労どを等家事歴事準も	たいでは、 抱の労業窮業備の え状支】者】支学	る況援 自 援習対に及 立 事・ 業生者り就 援・活	の支労 事 被支制援準 業 保援 護事 は 養事	受ン援、 対	果題の把 関し、保 業 主援 業 支援 業 支援 業 実援 まままます。	握しともの付 保 業 (できる)	に適切が つかを実施 が労を 援い が、 善支	事業・住居 援事業(令和	討するほ 会等の関 確保給付	を 対関係機関係 が関係 が関係所管・	と関へ	繋ぐ。		
経追		平成21年 6月 区独自事業として、仕事生活サポートデスクを常設設置 厚労省の経済危機対策として住宅手当緊急特別措置事業(住宅支援給付)の開始 平成26年 3月 厚労省の緊急雇用創出事業臨時特例基金事業であった住宅支援給付の終了 平成27年 4月 生活困窮者自立支援法施行。 生活保護に至る前段階の生活困窮者に対する支援の強化を図るため、福祉事務所設置 自治体において、必須2事業と任意事業による自立支援事業を実施。区独自であった「仕事・生活サポートデスク」を自立相談支援機関に位置付け。									った ると と。					
必要怕	生	窮者自立	支援	法が改正	され生活	困窮者~	の支援の	の充実を	図って	れた事業で おり、必要 ^を			6月に1	ま生活困		
実施方法			直営		援の窓口	「仕事・		ポートテ	·スク」 マ	会計年度係 を設置し、 との連携に	庁外に委	託の就労	5準備3	支援事業		
		 	の成長	甲レオス指揮を				指標の推				お煙に関	に関する説明			
指			事務事業の成果とする指標名			30年度	元年度	2年度	3年度 見込み	目標値 (8年度)	ᆲᆸᆟᅏᆝᆫᅜᆀᅔᅟᄼᆚᆸᇌᄱᆟ			(L+9/)		
	1	世事・生意数	活サポ	ピートデスク	ク相談件	2, 975	2, 659	4, 570	2, 940	3, 500		- I= _0 _ .	15 -45 Ala	· · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
標	2	支援プラ	支援プラン作成件数			146	89	28	240	200	R2年は支援プラン作成省略 ため減少			略が可能な		
	3															
		<u></u> 事務事業の分類				分類についての説明・意見等										
	3	年度 4年月			 度				が親につ	いての記り	H・息見	र्गे				
		推進		推進		平成28年度に支援員の増員及び就労準備支援事業を開始。令和2年度には 新たに家計相談専門員を配置し、生活困窮者への支援体制を整えており、 今後とも推進していく。										

				No2 (単位:千円											
		央算額等の推移	27年度		28年度		29年度 30年度			元年度 2年度 3年					
予算				12, 672 26, 161 25, 212			944	25, 254	150, 044	145, 498					
	額	(3年度は見込み)	8, 86		22, 886		2, 862		440	24, 963 元年度	148, 222	145, 498			
実	<i>i</i> +3	<u>事項名(3年度は見込</u> 事・生活サポートデスク を	27年度 28年度 29年度 1,653 2,320 2,700			30年度 2,975		2年度 4570	3年度 3500						
		事・宝冶ッポートテスク↑ 援プラン作成件数	日談計数		45	2, 320 97		12		146	2659 89	28	240		
		渡っりつけぬけ数 居確保給付金新規支給》		12	4		12	6	15	15	456	400			
移		平成26年度以前は住宅支持		'-				1	-10	10	100	100			
予算		央算の内訳	218137												
		令和元年度(決算)			令和2年度(決算) 令和3年度(予算)										
節		主な事項	金額(千円)	節							な事項	金額(千円)			
報酬		非常勤職員報酬	10, 609			年度任用			14, 705			任用職員報			
共済		非常勤職員社会保険料		職員手当								任用職員手			
需用等委託		事務用品、P C 用品 就労準備支援事業業務委託		無用費 需用費		度任用職員	1. 大下上	央科	2, 413 395			用職員社会保険 案内リーフレッ			
		郵便料	20			ृ∏ 吅 〖備支援事》	*業務	委託				支援事業業務委			
		住居確保給付金				確保給付					性居確保		118, 016		
旅費		非常勤職員旅費	60	役務費・旅費 郵便料								十年度任用職員旅			
						差額							立:千円)		
		勘定科目	元年度								元年度	2年度	差額		
		給与関係費	17, 9				31				17 721	101 651	102,020		
行	物件費 維持補修費		9, 8	0			7_		車文出金 支出金		17, 731 0	121, 651	103, 920		
TL		扶助費	2, 7	•	5. 962		53 政	ながれ	と山並 日金及び負	自拍金	0	0	0		
		補助費等	۷, ۱	0	0, 002	117, 2	0 0 7 7 7 7 7 7 7		料及び		0	0	0		
ス				0	0				の他		0	0	0		
ト 計	用	不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	0		0		收入合		<u>13, 032</u>		103, 920		
算		賞与・退職給与引当金繰入額	3		1, 888								25 , 140		
書		その他行政費用	00.7	0	0				文差額		0	0	0 05 140		
	#±	行政費用合計(b)	30, 7	0	9, 823 0				(差額(c)+(な 入(f)	d)=(e)	13, 032	▲ 38, 172	▲ 25, 140		
		別費用(g) 別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0) + (h)		•	<u> </u>		
	特別収支差額(f)-(g)=(h)														
備考	to a to														
I⊢J	〇住居確保給付金の申請件数は横ばいで推移すると思われる。 〇生活困窮者に対する相談の際 個々の状態にあわせた支援を実施するため、支援相談員が様々な施策を熟知														
題	〇生活困窮者に対する相談の際, 個々の状態にあわせた支援を実施するため、支援相談員が様々な施策を熟知 し、高度な相談スキルが求められる。														
点	し、同及は竹談へイルが不切りれる。														
課															
題															
問題	占 .	·課題の改善策													
1-37627	 			1		和り左曲		/			△4□2左□	ニュー Tool	1140+>		
		令和2年度に取り約 具体的な改善内				和2年度に実施した Z善内容および評価						度以降に取 的な改善内			
	4		申し他部署からの応援職員配置、会計年						- 車3	事務処理体制を事務職員・会計年					
		ぬに増加する住店帷保 について、相談及び事系									ともに共有				
		強化を図る。	7) /C-Y IT					、適切な支給処			ェバペラこ 钼談体制を				
		-			とがで				[]			•			
	各:	相談員の専門知識を全員	で共有	でスタ	ッフタ	≩議によ.	る情報	设交‡	魚のほ	1 ₂ /	タッフ会議	による情報	共有の場		
	き	るよう、適宜情報交換や	や職場内	研┃か、∑	東京都	『のオン	ライ:	ン研作	多を活用	 を」	以前より増	やし事務職	員や相談		
2		を行って全体の相談スキ	キルアッ		実際の)支援相	淡時	こ反り	央させ	員。	ともに情報	の共有を図	る。		
	を	図る。		た。											
		域包括支援センターやか										会や関係各			
3		ど各家庭に関わる事業を			まか、ひきこ						分かりやす	いものと			
9	げ	、対象者への周知に努め	りる。			よど、対象 レ支援に				する	5 .				
						ノス]反[〜。	糸り 、	J 1_0							
施区		(実施 22	区	未実	拖	0	≥	<u> </u>	不明	FI .	0	区)			
13 1, I		生活困窮者自立支援法し					が実	施。							
況実	۱ '	任意事業についても、し	ハずれか	の事業を	全区	が実施。									
		라이7左 호이디 스팸 - Frib	江田如士	<u>د </u>	亚汁 ~		- 1								
況議	半。 亚	成27年度9月会議 「生成27年度9日会議 「生		着自立支持 き自立支持						ね計り	ついて」				
会 要質		平成27年度9月会議 「生活困窮者自立支援制度における任意事業実施の検討について」													
安月															
世状															